

V. 部門の活動状況

1. 看護部

看護部長 見川葉子

【要約】

地域包括ケアシステムは、市町村や都道府県が地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げることが必要とされています。埼玉県南部地域である川口市では、救急医療が不十分な状態であるからこそ地域包括ケアシステムのあり方が問われているともいえます。埼玉協同病院は、地域特性を構成する病院として救急医療の一翼を担える病院の役割強化に取り組みました。救急医療・急性期医療・がん診療を重点とした病院機能を強めることができた2015年度でした。

貧困化がすすむ社会の中で、どのような人にも等しく必要な医療を提供できるようにと、がん・非がんでも困ったことを一度で受けとめ解決策を進める“ワンストップ”総合サポートセンターの機能も進められました。業務整理と認定看護師の配置などで、迅速性／専門性を発揮して相談機能が前進しました。また、新しい看護方式PNS (=Partnership Nursing System) を一部の病棟で取り入れたことで、常にパートナーと相談しながら看護実践ができる安心感・確実性の向上が見いだせました。看護職個々人の経験のばらつきがあってもパートナーがいることで、以前よりも早いステップで看護段階を進めること(例：夜勤への導入時期を早める等)が可能になりました。看護の効率性・確実性が引き上がったといえます。意見の相違や経験知の調整等、課題も多くありますが、一つひとつ課題を改善して2016年度につなげていきたいと考えています。

HPH (=Health Promoting Hospitals、以下HPH) の取り組みでは、日常診療の中にHPHを浸透させること、地域住民・組合員／職員／患者の3方向へ展開することを目標にしました。日常診療への浸透ではまだ限定された状況であり、

退院後の健康生活につなげる介入でも多くの課題があります。より実践的なHPHを目指して進めていきたいと思っています。

看護必要度・在院日数・入退院件数・退院調整などの急性期病院としての姿を追求しつつ、地域の医療／看護ニーズを真摯な姿勢で受け止め、看護実践を積み重ねてきたすべての看護職員に心から感謝したいと思います。

【2015年度行動計画／結果と課題】

1. 急性期病院として、必要な人材を育成するために、教育や研修を強化するとともに働きやすい職場づくりを進め、人材の確保を行う。

急性期病院の看護職として平日には40人近い入退院患者への対応、1000人超の外来患者対応など、迅速かつ安全・安心な医療／看護実践を積み重ねてきました。

急性期病院として、毎日の看護ケアの質を高めるために実践してきた教育・研修では、呼吸器チーム・救急診療委員会などが中心となり、疾患学習や呼吸療法学習、関わる医療機器そのものの学習を他職種と共に丁寧に行ってきました。

キャンサーボードでは、多種多様ながん治療方針／療養方針の策定を多職種での定期的な検討を続け、がん登録が284件／年(2014年162件)になるなど、がん診断を受けた患者の医療ニーズに応えてきました。がん化学療法の実件数も752件／年(2014年377件)に増え、現在の化学療法室の病床数では充分とはいえません。増床計画の具体化や病棟との連携を一層進める必要があります。また、がん看護面談を外来入院患者に積極的に行うことで、緩和ケア病棟への入院につなげ、病床活用性を高められました。

看護師確保では、2015年度4月には31名の新卒看護職(保健師9名、助産師2名、看護師20名)

を受け入れることができました。転居事情で1名の退職者がありましたが、他全員が、基本看護技術の習得、他部門研修、多重課題演習、ケースレポート発表会を終え、元気に2年目を迎えることができました。全体の離職率は10%と、前年度より低値になりました。後継者確保・育成の視点では、高校生の看護体験335名の受け入れや看護学生のインターンシップ107名を受け入れました。さらには看護奨学生に対しても後継者育成の一環で、看護理念の学習や戦後70年平和を守り続ける大切さを学習しました。また、憲法カフェinヘルスケアゼミ(=看護奨学生の集い)では、講師である弁護士より憲法改変案の説明や憲法9条の意味等も具体的に話され、グループディスカッション後には、「戦争をしない国、日本が変わろうとしている」「医療者が戦争加担者になる可能性があることがわかった」「選挙が大切な意思表示だとわかった」などの意見がありました。

また、労働環境整備として2014年度に制定した『日勤常勤』を活用した看護職は3名、『育児短時間勤務』活用者6名、『短時間夜勤』活用者2名など、ライフステージに合った働き方が進みました。2015年に開設した『病児保育』を18名の看護職が利用しました。中途入職者(2015年24名:2014年9名)の中には、教育制度の充実/職場の雰囲気の良いを推薦理由に知人からの紹介で就職につながることもありました。残業時間は、業務改善や新たな看護体制の導入などが功を奏して、前年度比0.27時間の減少となりました。今後は、子育て世代はもちろん若い世代から中堅・ベテラン世代にも働きやすさを実感できる職場のあり方を追求していきます。

2. 院内外の医療・福祉サービスと連携し地域の健康づくりに貢献できる取り組みを進める。

今年度のHPHへの取り組みでは、3方向(職

員/地域住民・組合員/患者)への働きかけを行うことを目標に掲げ、取り組みました。看護職員に多い腰痛症予防を目的にノーリフト委員会の開催が定例化し、スライディングシートを全看護現場で用いることで、腰痛症発生予防につながりました。また、朝の始業前体操は多くの職場で開始され、病棟では医師参加も常態化しています。患者向けには、HPH問診(≒外来/入院生活問診票)の記載率にこだわり75.9%という結果でした。退院時患者に対して、禁煙パンフレット(薬剤師担当)/運動パンフレット(リハビリ職員担当)/飲酒コントロールパンフレット(看護職担当)の3種類を渡し、健康的な退院後生活づくりを支援しています。

退院調整看護師と病棟看護師との連携を強化することで、退院調整が促進しました。在院日数は、10.8日(2014年10.9日)とさらに短縮できました。入院患者数増加から考えると、退院調整の効果は大きかったと思っています。また、地域近隣医療機関との連携が進み、当院の退院調整看護師が中心に関わり「地域連携看護師会」が発足しました。『退院時共同指導介護連携指導説明書』を地域で統一することで、地域内で他病院を利用した時にも患者・家族には同じ用紙で指導が行われるようになりました。また、薬剤師会とも調整し『在宅医療支援薬局リスト』の発行に至りました。それらは、在宅患者へのサービス向上につながったのではないのでしょうか。そのような取り組みを進められたのは、地域近隣の医療機関・介護事業所の方々の御指導、御協力の賜物です。

3. 急性期病院として一人でも多く急患に対応するとともに、在院日数短縮に対応した病棟・外来での業務改善に取り組む。

必要な治療/看護を必要な時期に効果的に実践し、患者と共にその過程を進めていくツールとして、クリティカルパスの運用を進められました。

新規作成2件、改訂16件、2014年更新の電子カルテとの連動も進みました。診療科ごとに必要な種類を増やし、ヴァリアンス調整をしていくことが今後の課題です。

また、2014年に開始した総合サポートセンターでの患者プロフィール入力を緊急入院患者へも拡大させました。緊急入院患者こそ様々な社会背景や生活/健康問題を多く抱えています。さらなる早期介入を目指していききたいと思います。在院日数10.8日(2014年10.9日)、入院患者数708人/月(2014年696人)、DPCII期間退院60%(2014年54%)という結果でした。

人員体制の強化と合わせて、業務の効率化等の検討も進めていきます。患者満足度調査では、外来回収率44.5%で、全体として利用しやすかった評点7.5(2014年7.3)でした。病棟回収率76.3%(2014年37.2%)で「退院後の生活に活かせるものが得られた」評点6.9(2014年7.9)でした。HPHの取り組みで、退院時に禁煙・飲酒コントロール・運動等のパンフレットを配布する仕組みはできたものの、配布するだけで「活かせる」とは思えず、入院の原因になった疾患についての介入方法と合わせて検討が必要です。前年度より回収数が増加したことで、患者本来の思いが表れてきたと捉え、入院患者満足度の向上を目指し、退院後の健康的な生活に結びつく看護のあり方を検討していききたいと思います。

【看護職員状況】

① 2015年度採用数

新卒採用者	既卒採用者	法人異動者	合計
31名	24名	5名	60名

② 2015年度退職・異動数

退職者	常勤からパート勤務への変 更者(再雇用 者含む)	法人異動者	退職者総数 (異動者含む)
39名	5名	14名	58名

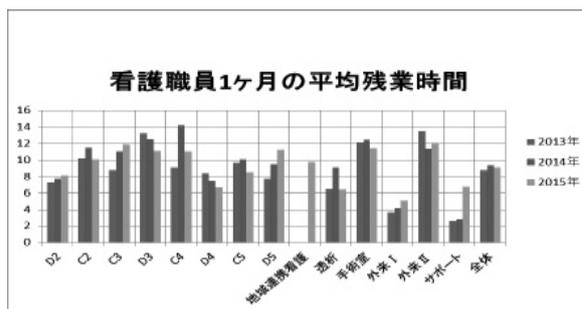
③ 離職率推移



④ 看護師数/床



⑤ 残業9.13時間/月平均(2014年度9.4時間/月)
前年比97%



2. 外来看護科 I

看護長 五十嵐加代子

【外来体制】

- ・診療科 内科急患、救急、内視鏡・放射線検査、整形外科、泌尿器科、外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科
- ・看護職 看護師 28 名、准看護師 15 名、看護助手 2 名
- ・特徴

救急搬入患者と Walk in で来院する患者を 24 時間体制で受け入れています。ER 強化体制 5 年目を迎え、救急要請 60% の到達と看護教育を充実させ、外来と HCU 病棟の連携が図れました。緊急で発生する内視鏡検査、放射線検査も待機態勢で貢献し、実績アップにつなげました。外来分野では救急外来と内視鏡・放射線検査と 6 つの診療科が合併となり、看護師連携を図り、それぞれの専門分野で力を発揮しました。患者会「ひまわり会（乳癌）」「卯月の会（ストマ）」「ひぎの会（膝関節）」「あしの会（股関節）」のサポートや、外科・整形外科看護師のチーム医療に非常勤スタッフも力を発揮しました。自己血貯血外来では、自己血輸血認定看護師と整形外科外来非常勤職員とともに医療の質にこだわり実績に貢献しました。

【総括】

1. 救急で受診する多数の患者様の病状変化に速やかに対応し、予期せぬ院内急変を防ぐために、フィジカルアセスメントとトリアージ能力の向上を目指し、学習会や症例の振り返りを実施しました。

急変時に迅速に対応できるように BLS、ICLS のシミュレーショントレーニングを実施しました。

2. 院内連携の強化として、外来での記録を SOAP での記録に変更しました。電子カルテに展

開することで、病棟への情報共有が可能となりました。外来看護師に求められる記録基準と院内の記録監査基準に基づき監査を実施した結果、サンプリングではありますが、80%以上が正確に記載できているという結果となりました。今後は SOAP の学習を実施し、記録の充実を図る必要があります。

3. 近年、増加傾向である内視鏡検査と放射線科検査に対応するため、検査介助ができる看護師やサポート育成のため手技を動画作成し稼働ができました。近年、医療機械の進歩によりモデルチェンジが早く、迅速に対応ができるスタッフ教育が求められています。
4. 救急外来でスタッフとして求められる能力として災害時の対応が挙げられます。通常の診療時とは違うトリアージ能力と診断、治療が求められます。外来看護師としての役割を認識するために、災害看護師教育の参加と登録ができました。外来看護師としてトリアージ訓練へ参加し、スタッフが災害時の役割を理解して実践することができました。
5. 各診療科では、学習会やセミナーへ参加し、最新情報の共有を図り、看護の質にこだわった看護展開に役立てることができました。また、外来患者様の健康の社会的決定要因にこだわり、問診や困難事例から早期に MSW へと橋渡しができました。

【今後の展望】

救急外来の診療にとどまらず、診療科急変に対して速やかに対応できるスタッフ育成が求められています。また、ER 体制強化に伴う人材育成と病棟連携を強化し、入院展開の時間を短縮し稼働につなげるのが課題です。

【実績】

- | | |
|------------|---------|
| 1. 救急車搬送件数 | 3,076 件 |
| 2. CPA 件数 | 51 件 |

3. 救急搬入後入院件数 990件
4. 診療科紹介件数
- | | |
|-----------|------------|
| 整形外科 781件 | 外科 377件 |
| 眼科 133件 | 泌尿器科 394件 |
| 皮膚科 379件 | 耳鼻咽喉科 141件 |
5. 診療科逆紹介
- | | |
|-----------|-----------|
| 整形外科 229件 | 外科 61件 |
| 眼科 31件 | 泌尿器科 54件 |
| 皮膚科 18件 | 耳鼻咽喉科 19件 |
6. 外来診療患者総数
- | | |
|--------------|---------------|
| 整形外科 33,089件 | 外科 15,719件 |
| 眼科 8,649件 | 泌尿器科 22,407件 |
| 皮膚科 20,456件 | 耳鼻咽喉科 11,122件 |

【教育・研修・研究活動・学会等への投稿実績】

- ・第13回全日本看護介護活動研究交流集会 参加
- ・第16回全国国民医連消化器研究会 演題発表
- ・第29回日本自己血輸血学会 演題発表
- ・ICLS資格取得
- ・BLS資格取得
- ・第46回埼玉消化器内視鏡講習会 参加
- ・看護協会 災害ナース研修
- ・接遇セミナー
- ・キャリア2研修 フィジカルアセスメント
- ・キャリア4研修
- ・第17回救急看護学会 参加
- ・埼玉看護学会 参加
- ・埼玉民医連看護学会 参加

3. 外来看護科Ⅱ

看護長 土生みき子

【外来体制】

- ・診療科 内科・糖尿病科・循環器科・消化器科・呼吸器科・精神科・精神科デイケア・脳外科・神経内科・血液内科・腎臓内科
- ・保健師8名、助産師3名、看護師7名、准看護師1名(糖尿病療養指導士3名、禁煙支援士2名)
- ・特徴

内科専門外来と精神科外来、精神科デイケアにおける療養指導と診療の補助業務。

健康増進センターにおける健診業務、特定保健指導、健診結果返し時の健康指導業務、各種健康教室の企画運営。

【総括】

1. 保健指導サポート体制を新設し、保健指導教室を2回開催したことにより、特定保健指導実績が昨年度を上回りました。
2. 専門外来での終末期看護の役割を明確にし、緩和ケアチームとの連携を深めました。
より専門性の高い療養指導を目指し、外部研修会への参加と発表を積極的に取り組みました。また、糖尿病透析予防指導の拡大、フットケア技術の伝授、精神科領域の療養支援の検討開始等を行いました。
3. 糖尿病・循環器外来においてHPH問診と介入を実施しました。また、オスロでの国際HPH大会への保健師派遣、子ども禁煙教室開催など保健活動に積極的に参加し、HPH活動を定着させました。

【今後の展望】

1. 専門外来において逆紹介活動の流れを確立させます。
2. 精神科での看護師介入を開始。糖尿病透析予防・

糖尿病フットケア・呼吸器外来リハ実績を伸ばします。

3. 外来終末期看護介入をフロー図に沿って定着させます。
4. 特定保健指導件数を伸ばします。また、健診によって発見された癌患者（特に胃・肺）を迅速に治療につなぐための手順を作成します。

【実績】

1. 2015年度看護外来総予約件数 1,170件
2. カンファレンス開催患者数 82名
3. 2015年度特定保健指導開始件数 61件
4. 教室への講師派遣 9件
5. 療養指導・保健指導に関する教室の企画運営 15件

【教育・研修・研究活動・学会等への投稿実績】

- ・禁煙科学会学術集会 演題発表および論文投稿
「喫煙継続慢性呼吸器疾患患者に対する肺年齢測定を用いた禁煙指導の有用性」
木村美穂
- ・オスロ国際HPHカンファレンス2015 ポスターセッション発表
Let's make Health Promotion of the local resident participation
~The role of healthcare workers through Sodium restriction campaign~
三浦沙織
- ・川口CGM研究会症例発表
「外来CGMにより無自覚性低血糖を発見できた1型糖尿病患者への関わり」
田中裕美
- ・禁煙支援士の資格取得 新島麻耶

4. 透析看護科

看護長 新井弘子

【透析体制】

- ・病床数 26床
- ・医師 5名
- ・看護職 保健師1名、看護師6名、
准看護師3名
- ・臨床工学技士 5名
- ・特徴

透析室では入院透析と外来維持透析を行っており、入院患者では、糖尿病外来や腎外来からの透析導入と、緊急入院で透析が必要になった患者、他施設の維持患者で入院した場合の透析に対応しています。維持患者には、合併症予防のため、食事水分管理や日常生活に対しての患

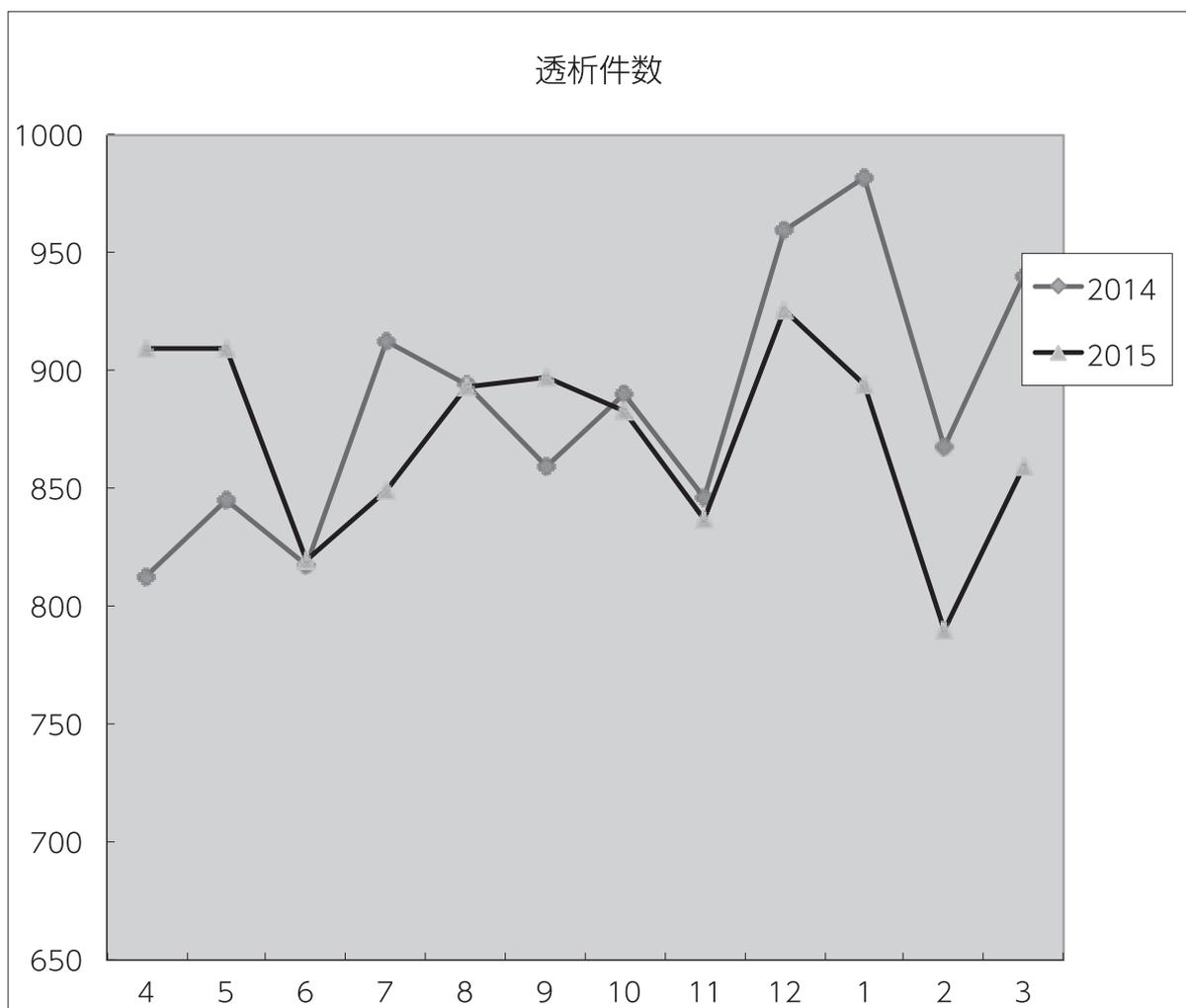
者指導、またフットケアなどを行っています。

【総括】

1. 急性期および透析導入病院としての役割発揮に関して、透析看護外来を立ち上げて2年目であり、腎外来に通院中のCKD患者へ家族を含め指導を行いました。主に透析入院患者が多いD4病棟との連携で導入患者への指導を充実させるため、チーム会議を定例化し、導入時チェックリストの検討や、D4スタッフの透析室研修を行いました。合同カンファレンスにもD4看護師が毎回参加し、入院患者の情報を共有しています。
2. 透析室での災害対策について検討し、防災マニュアルの見直しと患者への防災学習会を実施しました。スタッフに関しては、3月に緊急離脱および避難訓練を行いました。前後にアンケート

透析室月別患者統計表

年度	月	件数	日数	外来		入院		病棟		Total
				患者数	件数	患者数	件数	患者数	件数	
2014	4	68	813	53	702	15	111	3	10	813
	5	71	845	56	747	15	98	5	8	1658
	6	72	818	52	716	20	102	4	16	2476
	7	77	913	57	771	20	142	3	4	3389
	8	75	894	58	778	17	116	2	3	4283
	9	74	860	59	778	15	82	2	4	5143
	10	77	890	55	797	22	93	2	5	6033
	11	78	846	60	727	18	119	2	2	6879
	12	78	960	56	830	22	130	6	8	7839
	1	82	982	64	854	18	128	2	2	8821
	2	82	868	59	750	23	118	1	3	9689
	3	78	940	62	821	16	119	4	6	10629
2015	4	79	910	62	820	17	90	3	9	910
	5	84	910	60	799	24	111	6	11	1820
	6	73	820	61	758	12	62	3	10	2640
	7	71	849	55	793	16	56	1	2	3489
	8	74	893	56	739	18	154	2	4	4382
	9	77	897	56	756	21	141	6	23	5279
	10	75	883	56	777	19	106	4	11	6162
	11	77	837	52	704	25	133	3	11	6999
	12	82	926	51	748	31	178	8	29	7925
	1	78	894	56	745	22	149	0	0	8819
	2	68	790	53	732	15	58	1	3	9609
	3	72	860	49	738	23	122	1	3	10469



トを実施し、訓練後は理解度が上がったとの評価を得ました。

3. 透析患者の合併症や症状改善のため、オンラインHDFやエルカルチンなど薬剤使用を開始し、症状についての患者アンケートを実施しました。
4. 安全な透析を提供するため、看護師と技士の両方で毎月会議を定例化し、事故報告書の検討と是正処置の実施、評価をしています。類似事故の事例分析を6例行いました。

【今後の展望】

透析中の急変時への救急対応力の向上に努めます。透析看護外来指導数を増加させます。コメディカルを含めたカンファレンスを実施します。

【実績】

1. 年間透析件数 10,469 件
2. 外来透析管理患者数延べ 667 人
3. 入院透析管理患者数延べ 243 人
4. 透析導入数 28 人

【教育・研修・研究活動・学会等への投稿実績】

- ・埼玉民医連学術・運動交流集会 演題発表 (2 演題)
- ・医療生協さいたま看護学会 演題発表 (1 演題)

5. 手術看護科

看護長 佐藤笑美子

【手術室体制】

- ・麻酔科医 2名
- ・外科医5名・整形外科医4名・産婦人科医4名
泌尿器科医2名・眼科医1名
- ・看護職 看護師19名、准看護師2名
- ・看護助手5名
- ・特徴

手術室は5部屋あり、そのうち1部屋がバイオクリーンルームです。消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科、整形外科、産婦人科、泌尿器科、眼科の7科に対応しています。夜間帯の緊急手術は待機オンコール制で2名の看護師が対応しています。周手術期看護として術前、術中、術後でそれぞれ訪問を行い、麻酔外来も対応しています。

【総括】

1. 人材確保と育成

卒1看護師1名を配属し、業務が自立し待機に入っています。卒2看護師3名も研修を修了しました。毎月部会で学習会を開催し、学びを深めています。

2. Q1から見える課題

術前、術中、術後の訪問率が大幅に増加しました。麻酔外来での待ち時間が短縮できるよう予約枠を調整変更しました。また、待ち時間を有効利用できるように麻酔別パンフレット、モニターを活用しています。

3. 5疾患5事業への対応力

電子カルテ更新での手術申し込みから実施入力、会計までの仕組みが確立し、各科の稼働状況を出し、計画通り予定手術を受け入れました。緊急手術も受け入れ、前年比で107.9%、169件の増加となりました。

【今後の展望】

年々手術件数は増加し、手術の難易度も高くなってきています。件数増加だけでなく、稼働状況で各科との調節をし、安全第一に効率よく手術実績を伸ばします。その中でも、患者様の手術環境を整え、家族も含めて安心して手術が受けられるよう、各科・病棟と連携を強化した手術室看護を実践します。

日々変化している手術医療に対し対応できる看護師の力量、指導力の向上を図ります。

手術に使用する医療器材医材の管理を行います。

【実績】

1. 各科手術件数:外科686件、整形外科1,003件、産婦人科311件、泌尿器科209件、眼科243件、合計2,452件
2. 各科術式割合:
 - 1) 外科 ヘルニア手術21.0%
腹腔鏡下胆嚢摘出術15.3%
腹腔鏡下虫垂切除術7.7%
 - 2) 整形外科
人工関節全置換術(股)29.7%
骨折観血手術17.5%
人工関節全置換術(膝)15.4%
 - 3) 産婦人科
帝王切開33.8%
腹式単純子宮全摘術18.3%
子宮付属器腫瘍摘出術10%
 - 4) 泌尿器科
前立腺生検33.0%
シャント16.3%
経尿道的膀胱悪性腫瘍手術15.7%
 - 5) 眼科 水晶体再建術94.2%
3. 手術室稼働率:時間内年平均44.3%、時間外平均49.3%、時間外の稼働が多くなりました。
4. 手術式緊急変更率:外科で3件、うち試験開腹2件、バイパス手術1件でした。

5. 術前訪問件数：外来手術、眼科以外の訪問を行い、1,536件でした。
6. 術中家族説明件数：予定手術3時間以上の手術患者家族に対し307件訪問しました。
7. 術後訪問件数：訪問方法などの改善をして734件と大幅に増加しました。退院日などを考慮し、時期の検討が課題です。
8. 麻酔科外来面談件数：1,708件。麻酔外来受診されない患者に対しては病棟往診を行っています。

【教育・研修・研究活動・学会等への投稿実績】

- ・2015年度埼玉民医連看護学会 演題発表（2演題）
- ・2015年度埼玉民医連学術・運動交流集会 演題発表（2演題）
- ・2015年度埼玉県看護協会 演題発表（2演題）
- ・埼玉県手術室情報交換会 参加（年2回開催）

6. 看護サポート

副主任 鈴木善子

【特徴】

私たち看護サポート部は看護業務支援として安全で、快適な療養環境を整えるため、看護師の指導のもと、日々の業務を遂行しています。また看護部門のメンバーとして年間教育計画に基づき、職員の力量向上や能力開発に努めています。

【体制】

看護助手 41名

配属先 整形外科外来・手術室・内視鏡室

C2病棟・C3病棟・C4病棟・C5病棟

D2病棟・D3病棟・D4病棟

【総括】

今年度は看護師のニーズに合わせ、新規のケア介入をすることで看護師の業務負担を軽減することと、職員のスキルアップを目標に取り組んできました。年間教育に基づいた学習会の実施や新規ケアに介入するための職員の技術指導も計画に取り入れ、実施してきました。また感染対策では、「手指衛生 AWARD」にエントリーし、手洗い手技を学び、3ヵ月間の強化月間を設けて評価し、あらためて手指衛生の大切さを実感できました。

【今後の展望】

病院全体の対応力の向上を図るために、職員のケア技術、対応力の強化を行い、病棟や各ポジションでのサポートの役割を明確にし、業務が遂行できるように努めます。

【教育・研修・研究活動・学会等への投稿実績】

《2015年度年間教育計画に基づいた学習実績》

- ・接遇マナー研修への参加
- ・医療安全学習会（食事介助・車椅子移乗介助・

- 医療安全の基礎知識・暴言暴力の対応・個人情報
情報の基礎知識・環境エコ学習〈夏の節電対
策〉・感染対策学習〈職業感染について・感
染症の基礎知識・感染対策の基本〉)
- ・医療倫理学習会 (個人情報保護について)
- ・化学療法・曝露対策について学習
- ・2015年院内「手指衛生 AWARD」エントリー、
事務長賞受賞

7. C2病棟看護科

看護長 砂川千恵子

【病棟体制】

- ・病床数 51床
- ・看護職 保健師10名、看護師22名
- ・看護助手 11名 (担当になっている総数)
- ・病棟クラーク 1名

【特徴】

C2病棟は消化器内科疾患と眼科白内障手術の患者様を中心に医療の提供を行っています。

食道から大腸、膵胆肝系の検査や治療、悪性疾患などの患者様が多く、昨年度以降から特に膵胆管系の検査や治療が増加しました。

急性期疾患の患者様が多く、在院日数もとても短いので、入院時から退院支援に取り組んでいます。また悪性腫瘍も多く、疼痛緩和やQOLの向上、患者様・ご家族の方の精神的援助ができるよう日々努めています。

【総括】

- ①「患者や看護師にとって安心・安全な医療を提供します」

パートナーシップ・ナーシングシステム(PNS)という新しい看護方式を8月末から導入しました。2人1組で患者様の看護を実施します。若手看護師の育成や医療事故の減少、業務量の減少(ワークライフバランス)に努めました。

- ②「消化器内科病棟として総合的の力量を高め、看護を提供します」

ERCP件数の増加により、処置介助に対応できるスタッフを昨年度同様育成し体制を整えました。また、内視鏡検査研修を通し、理解を深め継続した看護へつなげることができました。

- ③「HPPHに取り組み、ヘルスプロモーション活動の推進を行います」

職員の腰痛を予防するため、毎日朝会時に腰痛体操を取り入れ、実施しました。また、患者様の移乗の際にトランスボードやシートを活用し、腰痛への負担を軽減できるよう取り組みました。患者様には飲酒について取り組み、必要時指導を行いました。

【今後の展望】

- ① P N S を継続し、看護師育成、業務環境の整備、スタッフのワークライフバランスを見直します。
- ② 安全・安心な看護の提供を行います。
- ③ 退院調整力を強化し、適切な支援を実施します。

【実績】

1. 新入院患者数 1,456 名
2. 入院延べ人数 1,557 名
3. 平均在院日数 11.0 日 (12 月 8.0 日)
4. 占床率 (51 床換算) 91.1%

【教育・研修・研究活動・学会等への投稿実績】

- ・全日本民医連主催 消化器学会 1 名発表
- ・法人内 看護学会 2 名発表
- ・法人内 学術交流集会 1 名発表

8. C3病棟 (産婦人科) 看護科

看護長 高橋里美

【病棟体制】

- ・病床数 40 床
- ・看護職 助産師 26 名、看護師 3 名、准看護師 1 名
- ・看護助手 5 名
- ・特徴

産婦人科外来と病棟を担当しています。産科と婦人科を中心として、眼科や内科も受け入れている女性混合病棟で、女性のライフサイクルに深く関わる部門として活動しています。産婦人科開設当初から続く母親学級「うぶ声学校」、助産師が行う「命の授業」、助産師外来「ひだまり」、マタニティ・ヨガ、子育て教室や育児を手伝う世代へ向けた「『孫と一緒に』広場」も行っています。小児科や地域とも連携し、とぎれない子育て支援を心がけています。

【総括】

1. 利用しやすい病棟を目指し、他科や女性患者の受け入れもあり病床利用が増加。
分娩数の他科との連携も増え、乳腺外科と婦人科の合同手術、整形外科と婦人科の合同手術など新たな対応も行いました。
2. 院内外での活動を継続し、発表。
「いのちの授業」、「帝王切開うぶ声」、新生児の臍肉芽の研究など、学術・運動交流集会や看護学会で発表を行いました。
3. キャリアラダーに応じた人材育成への取り組みの結果、助産師全員が助産能力習熟段階を用いて評価を行い、13 名がアドバンス助産師の認定を受けました。
4. 関係機関との地域連携を充実させ、特別養子縁組やDV避難者への対応など、社会的困難を抱えている利用者についても目を向けられました。

【今後の展望】

総合病院の産婦人科という特性を活かし、女性のライフサイクルを広い視点で捉え、家族や将来を考えた医療の提供ができるよう活動を継続します。経済的・社会的困難事例にも取り組みを続け、女性と子どもの貧困対策や子ども食堂など社会的ニーズにも目を向けた活動にも参加していきます。

【実績】

1. 病床利用率 年間平均 68.6%

1月 60.8%、2月 69.7%、3月 68.4%、4月 79.3%、5月 70.4%、6月 63.3%、7月 67.8%、8月 68.6%、9月 60.1%、10月 61.6%、11月 79.9%、12月 73.4%

2. 分娩件数 年間 523件 (前年比 107.2%)

1月 39件、2月 44件、3月 38件、4月 42件、5月 46件、6月 39件、7月 44件、8月 43件、9月 50件、10月 31件、11月 54件、12月 53件

【教育・研修・研究活動・学会等への投稿実績】

・日本助産評価機構認定 アドバンス助産師 13名

・埼玉民医連学術・運動交流集会

①「帝王切開のためのうぶ声学校を開催して」

発表者：柳澤陽香

②「助産師が行う命の授業の在り方～小学生の親を対象としたアンケートより～」

発表者：住中美奈弥

・埼玉民医連看護学会

①「新生児の臍脱日数と臍肉芽の関連を明らかにする」

発表者：石川幸恵 共同発表者：村井佳美

②「帝王切開妊婦に対する出産前教室が与える影響」

発表者：清水亜希子

・いのちの授業 講師派遣活動

9. C3病棟 (小児科) 看護科

主任 高田綾野

【病棟体制】

- ・病床数 15床
- ・看護職 助産師1名、看護師9名
准看護師1名

【特徴】

2015年小児科スローガン

「子どもの笑顔のために、皆さんで子どもをとりまく環境をサポートしましょう」

今年度は医療生協さいたまの職員が子どもを育てながら働き続けられる環境作りの一環として2015年6月に病児保育室を開設しました。

2016年3月までの利用者は延べ47名です。

家庭と仕事を両立してより良く働くことができるようワークライフバランスについても考えながら、子育ての一番の応援団である小児科看護師ならではのサポートを実践してきました。

長年支えてきたベテラン看護師や、病棟保育士の活躍により、家族背景まで含めた、より深い関わりができ、子育てする家族の看護も充実しています。

看護師11名という少人数で委員会、係など積極的な活動にも取り組みました。

- ・小児科専任リスクマネージャーとして活動し、リスクマネージャー交流会で取り組みを発表しました。
- ・HPH活動として喘息患者さん家族への禁煙の働きかけをしました。
- ・地域活動委員として担当地区の健康祭りに参加し、組合員さんとふれ合い交流を深めました。
- ・その他、SHJ委員会、エコリーダー会議、労働組合、学習会など役割分担し、さまざま

な活動をしています。

【総括】

1. 職員が子どもを育てながら働き続けられる環境作り。

2015年6月に病児保育室を開設しました。

2. 専門性を発揮した小児科。

医師と意思統一をはかり、多職種で支援する体制を強化しました。

看護師、保育士、栄養士、歯科衛生士、リハビリ、MSW、事務など、コメディカルと連携しました。乳児健診に歯科衛生士の指導を再開しました。

3. HPH活動。

喘息患者さん家族への禁煙教育を行いました。

乳児健診、予防注射、その他各教室がHPH活動を進めました。

【今後の展望】

1. 地域のニーズを取り入れた看護（障害児在宅、小児救急医療など）の提供と質の向上を目指します。
2. 子育て支援を継続するとともに、気になる患者支援を強化し、虐待予防に努め、親子のサポートをしていきます。
3. 働きやすい職場作りを目指して、病児保育室を継続し、利用者からの要望に応じていきます。

【教育・研修・研究活動・学会等への投稿実績】

〈教室〉

- ・喘息教室 9月実施
- ・離乳食教室 毎月2回実施
- ・ベビーマッサージ 毎月第2金曜日実施
- ・いのちの授業（産婦人科合同） 保育園、幼稚園、学童、小学校、中学校、高校へ講師派遣
- ・子育て教室（産婦人科合同）年間2期実施
- ・季節イベント（サマー、クリスマス）
- ・孫育て教室（産婦人科合同）年3回実施

- ・地域保健センターとの合同カンファレンス参加

〈発表〉

- ・第8回東日本小児医療研究会
発表者：丸岡保育士（協同研究者、高田綾野）
「院内保育所における子育て支援の取り組み～小児科とともに～」
- ・第4回学術・運動交流集会
発表者：勝原美樹「小児科リスクマネージャーとしての活動」
発表者：赤瀬友紀「小児科業務改善から見えてきたこと」
発表者：丸岡保育士「病児保育室を開始して」
- ・看護協会第7支部研究発表会
発表者：田中美江「小児科外来を受診した気になる患者から見えてきたこと」
- ・埼玉民医連看護学会
発表者：高田綾野「精神科疾患合併妊産婦支援において助産師が抱える困難」
- ・役職者研修
発表者：高田綾野「生活保護実態調査の聞き取り事例から学ぶ」

〈研修〉

- ・虐待、救急、BLS（日本ACLS協会ヘルスケアプロバイダー資格取得）

〈資格〉

- ・BLS（日本ACLS協会ヘルスケアプロバイダー資格）2名在籍
- ・新生児蘇生法Aコース認定助産師1名在籍
- ・アドバンス助産師資格取得1名在籍

10. C4病棟看護科

看護長 安藤美智子

【病棟体制】

- ・病床数 24床
- ・看護職 保健師2名、助産師0名、看護師16名、准看護師0名
- ・看護助手 1名(担当になっている総数)
- ・病棟クラーク 1名

【緩和ケア病棟とは】

がんにより生じる痛みをはじめとする体のつらい症状や、患者様とご家族が病気と共に生きることの心のつらさを和らげ、その人らしく生きることを支援させていただきます。がんそのものを治すことが難しい状況にある患者様のための入院施設です。症状が軽快されたら在宅調整の支援も行っています。

【緩和ケア病棟の理念】

体のつらさだけでなく、心のケアも同時に行い、患者様の気持ちを尊重し、穏やかに過ごしていただけるように支援していきます。

【緩和ケア病棟の基本指針】

私たちスタッフは、

- ①患者様・ご家族に、寄り添える看護ケアを実践していきます。
- ②地域や他部門との連携を大切に、その人らしさを最期まで追求していきます。
- ③患者様からの学びを大切に、育ちあえる医療者として努めていきます。

2013年に緩和ケア病棟を開設して、3年が経過しました。

緩和ケア病棟では理念や基本指針を大事に、日々看護しております。症状緩和・苦痛緩和・精神的

支援を行い、残された日々をその人がその人らしく過ごせるように援助しております。お看取りの患者様は多くありますが、近年では当院だけでなく、大学病院や近隣の病院から自宅に帰り、在宅診療や訪問看護を利用しながら過ごされ、必要時利用される方も多くなっています。また当院から退院される場合は、在宅調整を行い、ご自宅での生活ができるよう訪問診療や訪問看護など地域と連携して支援しています。

食養科の協力のもと、ティータイムサービスの実施や、音楽療法としてボランティアによるオカリナ演奏や、薬剤師によるフルーツ演奏、ソーシャルワーカーのお子さんによるバイオリン演奏と他部門のスタッフの協力も得ながら、癒やしの時間にこだわってきました。また、病棟内の飾り付けやイベントを実施し、患者様やご家族と季節を語ってきました。

【総括】

1. グリーフケアとして緩和ケアの質について、13年度・14年度看取られた遺族へアンケートを実施しました。ソフト面やハード面についてご意見をいただき、今後改善できるところは整備していきます。

また、第1回遺族会(陽だまり)を開催し、遺族15組・18名が参加し、現在の心情やそのときの思いを語られ、穏やかな笑顔で帰宅されました。

2. 急性期病院における緩和ケア病棟として、外来や在宅からの緊急入院やレスパイト入院を速やかに受けることで、15床前後の入院患者を維持することができました。定例の判定会議以外にも、臨時で判定会議を実施することで達成できました。

【今後の展望】

- ①入院患者15床前後での病棟運営(随時緊急を受け入れるため)。

- ②イベント（音楽療法・ティータイム等）の継続とボランティアの導入。
- ③グリーンケアの充実。
- ④多職種でのカンファレンスを実施し、質の高い看護を提供する。

【実績】

1. 新入院患者数 369人
2. 入院延べ人数 394人
3. 平均在院日数 18.3日
4. 占床率 53.8%

【教育・研修・研究活動・学会等への投稿実績】

- ・ELNEC-J スタッフ向けに開催（緩和ケア認定看護師）
- ・埼玉民医連学術・運動交流集会1演題
- ・看護学会1演題
- ・看護協会研修会参加一家族ケア・がん看護・ELNEC-J 3日間コース参加1名

11. C5病棟看護科

看護長 石田真希

【病棟体制】

- ・病床数 50床
- ・看護職 保健師9名、看護師26名
- ・看護助手 5名（担当になっている総数）
- ・特徴

C5病棟は、呼吸器内科と総合内科の混合病棟です。糖尿病血糖コントロール入院の受け入れや大腸EMRの入院受け入れも行っています。また、2015年度はパートナーシップ・ナーシングシステムを導入し、看護の質の向上に努めてきました。

【総括】

- 1) 平均在院日数の短縮と占床率95%を維持することを目標に、ベッドコントロール、退院調整を行いました。平均在院日数は、前年度15.2日でしたが、14.5日に短縮しました。占床率は、91.9%でした。
- 2) 糖尿病血糖コントロール入院受け入れが2年目となり、クリニカルパスの修正、患者教育の質の向上を目指し、糖尿病に関わるスタッフの学習の強化を行いました。
- 3) パートナーシップ・ナーシングシステムを導入し、スタッフ同士のコミュニケーションが増加し、看護の質の向上につながりました。また、超過勤務の削減にもつながりました。

【今後の展望】

- ・呼吸器チーム、糖尿病チーム、がん化学療法チーム各々のチームが機能し、質の高い看護を提供できるようにします（観察力・アセスメント力の強化）。
- ・退院調整力を強化します。
- ・病院機能評価に向け、文書類・記録の整備を

行います。

・各クリニカルパス類の評価・見直しを行います。

【実績】

1. 新入院患者数 1,392人
2. 入院延べ人数 15,381人
3. 平均在院日数 14.5日
4. 病床利用率 91.9%
5. 気管支鏡実施数 88件
6. 死亡数 47人

【教育・研修・研究活動・学会等への投稿実績】

教育・研修は年間教育計画書に基づき実施しています。

・埼玉民医連学術・運動交流集会 演題発表(2演題)

12. D2病棟看護科

看護長 松田昌一

【病棟体制】

- ・病床数 57床
- ・看護職 保健師2名、看護師30名、准看護師1名
- ・看護助手 5名(担当になっている総数)
- ・特徴

変形性関節症や脊椎、骨折や外傷などの疾患が多く、手術や急性期の治療・処置を必要とする患者様の受け入れをしています。

周手術期看護を中心とした病棟業務。

【総括】

1. 平均在院日数19.7、病床利用率87.3%となりました。長期入院となりうる大腿骨頸部骨折の患者に対して退院調整チェックリストを使用しました。また、他職種参加のカンファレンスを活用し、在院日数短縮につながりました。
2. 電子カルテ移行に伴い、紙パスから電子パスへ8種類(両THA・THA・両TKA・右TKA・左TKA・上肢・下肢・ミエロ)を稼働させました。THA・TKAのパスの入院期間の見直しを行い、それが在院日数短縮につながりました。
3. 病棟内でのHPHの取り組みとして、病棟内歩行リハビリ・病棟内班会・腰痛体操を行った。歩行リハビリを行うことで病棟全体のリハビリに対する意識が高まり、活気ある病棟となっています。

【今後の展望】

さらなる在院日数の短縮と病床稼働率維持に努めます。

内科疾患をもつ整形患者増加に対応するため、さらなる看護師のレベルアップに努めます。

電子パスのバリエーションとアウトカムの評価を行います。

【実績】

1. 新入院患者数 平均 77.8 人／月 934 人
2. 平均在院日数 19.7 日
3. 病床利用率 87.3%
4. 手術件数 891 件
5. 死亡数 1 件

【教育・研修・研究活動・学会等への投稿実績】

年間教育計画書に基づき活発に実施しています。新人看護師には手術室の協力のもと、手術見学も実施しています。

学会認定自己血輸血看護師、認知症ケア専門士も在籍しており、整形看護師として知識や技術を高め合い、日々奮闘しています。

2015 年度埼玉民医連学術・運動交流集会 演題発表（1 演題）

2015 年度医療生協さいたま看護学会 演題発表（1 演題）

13. D 3 病棟看護科

看護長 福田友美

【病棟体制】

- ・病床数 56 床
- ・看護職 保健師 11 名、看護師 22 名 乳がん看護認定看護師・がん化学療法認定看護師
- ・看護助手 2 名

【特徴】

がん腫瘍切除術（消化器癌・呼吸器・乳腺）、腹腔鏡下術（胆嚢・肝切除等）、鼠径ヘルニア手術等の周術期看護。

術前・術後の化学療法、外来化学療法室との連携。

患者様、ご家族の意向に寄り添い、症状緩和、看取り、在宅調整等の地域連携。

【総括】

1. 腹腔鏡下補助手術（結腸）、肝腫瘍切除術等、腹腔鏡下手術の増加により、術後侵襲を軽減し、術後合併症の減少につながりました。腫瘍切除、胆・肝・膵臓系の高難易度手術の増加を目標に取り組みました。外来部門、手術室と連携を強化し、緊急入院、緊急手術を断らずに受け入れ、病床利用率を維持しました。
2. がん医療において、認定看護師を中心に、外科、乳腺外科とともにカンサーボードの開催、外来看護師との情報交換、共有により切れ目のないがん治療の支援、外来化学療法室との業務連携、緩和ケア医療に至るまで患者の療養サポートが行えました。前年度よりがん化学療法を受ける患者が約 2 倍と増加しました。
3. 多職種合同カンファレンスを定期開催しました。治療目標、術後経過等の情報共有から、各専門職が職能を活かしたケアを実践し、患者の退院後の生活を捉えた療養支援が行えました。

【今後の展望】

1. 他科連携により手術件数を増やします。高難易度の手術に対応できる周術期看護のスキルアップに努めます。
2. 地域活動への参加を通し、がんの教育、普及啓発を行います。がんと診断された時からの緩和ケアの推進をがん相談支援センターと協働します。認定看護師の育成、連携強化によるがん看護の質向上を目指します。

【実績】

1. 新入院患者数：平均 129.1 人／月
2. 入院延べ人数：1,549 人（転入：79 人）
3. 平均在院日数：平均 9.8 日
4. 病床利用率：(占床率) 平均 79.8%
5. 手術件数：外科 674 件 泌尿器科 85 件
合計：759 件
6. 化学療法：全科実人数：481 人

【教育・研修・研究活動・学会等への投稿実績】

- ・第 23 回日本乳癌学会学術総会
- ・第 11 回日本乳がん看護研究会
- ・第 53 回日本癌治療学会学術集会
- ・第 30 回日本がん看護学会学術集会
- ・第 138 回日本輸血・細胞治療学会（関東甲信越支部例会）

14. D4病棟看護科

看護長 浅香真弓

【病棟体制】

- ・病床数 50 床（HCU 4 床、一般 46 床）
- ・看護職 保健師 7 名、看護師 31 名
- ・看護助手 7 名（担当になっている総数）
- ・特徴

D4 病棟は HCU 4 床と、循環器・糖尿病・腎臓病・脳梗塞や脳出血などの血管障害の患者様が入院されている総合内科 46 床の病棟です。

多職種で患者様に関わる業務体制を整え、質の向上を目指してきました。また、医師の初期研修の場として、医師、看護師が共に学び合う環境作りを目標に活動しています。

【総括】

HCU 病棟として、重症患者ケアに必要な対応力を習得し、安心・安全な医療・看護の提供を行うことを目標に、HCU を担当するために必要な業務の支援と評価を行い、段階的に業務の自立を支援してきました。HCU 対象 80% を目指す運営を行っています。

総合内科としては幅広い対応力を習得し、安心・安全な看護の提供を目指し、3 チーム（循環器、腎・透析、HCU）編成で活動を行ってきました。

循環器チームでは、今年度は CAG・PCI のクリニカルパスを電子化での運用を始めました。カテーテル室担当業務も含めたスタッフの育成を計画的に進めています。

また、腎・透析チームでは、透析室との連携を目的に透析室での研修を実施しました。来年度は、透析予防・シャントに関わる看護業務に透析室と合同で実施できる体制を作っていきたいと考えています。

【今後の展望】

急性期病院として一人でも多くの患者に対応するとともに、在院日数の短縮と病床稼働率を上げる取り組みを継続します。HCU受け入れ対象患者の検討と手立てを話し合い、経営とやりがいを両立できる病棟運営を目指します。

【実績】

1. 入院患者数：1,365人
2. 入院延べ人数：15,010人
3. 平均在院日数：9.7日
4. 病床利用率：89.1日
5. 心臓カテーテル件数：256件
PCI件数：20件
6. 死亡数：45人

15. D5病棟看護科

看護長 山梨 忍

【病棟体制】

- ・病床数 50床
- ・看護職 保健師3名、看護師15名、介護士8名、
補助看護1名
- ・特徴

D5病棟は回復期リハビリ病棟で、脳血管疾患、運動器疾患、特に当院での術後の患者、人工関節術後、骨折術後の患者を中心に受け入れをしています。脳血管疾患と、運動器疾患の患者割合は5：5であり、当院の手術件数増加もあり、近年運動器疾患の患者数が増加しています。当院からの転科の他に、近隣の病院からの依頼も多いです。

運動器疾患の患者割合が多いこともありますが、全国的に見ても平均在院日数も短く、運動器の患者割合が多いので、重症度の回復期リハビリ病棟に必要とされる基準を保つことが困難になっていますが、高稼働を目指しベッドコントロールを実施し、急性期病院内における回復期リハビリ病棟の役割を果たしています。

【総括】

1. 各種の専門性を生かし、チーム医療を展開させ、急性期病院における回復期リハビリ病棟の役割を発揮するために、計画的なベッドコントロールを行い、入退院調整を実施しました。
2. 多職種で1年間目標を持ってチーム活動を実施してきました。各チーム目標達成に向けて活動することで、活発なチーム活動が実施できました。集団リハビリは、リハビリ単位の少ない土・日・祭日に実施することで患者満足につながりました。リハビリプログラムの一環でケアの向上を目指し、秩父生協病院の回復期リハビリ病棟との交流を実施しました。その中でもチーム活動についても交流を実施しました。

【今後の展望】

- ・急性期病院としての機能を高め、計画的な退院調整を図り、効果的な病床利用を目指します。
- ・スタッフ一人ひとりが専門職としての力量を高め、回復期リハビリ病棟の質向上に努めます。

【実績】

1. 入院患者数：114人
2. 入院延べ人数：16,428人
3. 平均在院日数：60.0日
4. 病床利用率：91.2%
5. 在宅復帰率：87.6%
6. 重症患者回復率：58.0%

【教育・研修・研究活動・学会等への投稿実績】

第25回全日本民医連神経・リハビリテーション研究会

「回復期リハビリテーション病棟での歯科との連携による口腔ケアの取り組みについて」

木村昭子

16. 薬剤科

薬剤科 科長 松川朋子

【人員体制】

- ・薬剤師 常勤20名、非常勤3名
- ・薬剤助手 非常勤4名
- ・資格 認定実務実習指導薬剤師、日本病院薬剤師会認定指導薬剤師、日本病院薬剤師会生涯研修認定薬剤師、日本病院薬剤師会生涯研修履修薬剤師、日本薬剤師研修センター認定薬剤師、NST専門薬剤師、抗菌化学療法認定薬剤師、緩和薬物療法認定薬剤師、糖尿病療養指導士、介護支援専門員
- ・特徴

常勤22名中、薬剤師経験10年未満が半数を占める若い集団です（うち新卒1名）。ほか時短制度利用3名が力量を発揮しつつ、薬剤師集団の中で援助しあい、院内での役割を担っています。

【総括】

1. 電子カルテ更新では当院導入コンセプトの一つひとつで実績事例を集約し提示できることにこだわりました。特に注射セット業務は、看護部と合同で大きく合理化に向かっていきます。また、各専門チームで役割を発揮し、システムを活用したレジメン管理やICT、NST業務への反映と改善に取り組みしました。
2. 調剤薬局との連携強化により事故が起こらない仕組み作りを追求し、院外処方箋表記を1回量と1日量併記に移行したことをはじめ、懇談会（3回）での学習会、双方向のプレアボイド等の情報共有、共同行動（学術研究、薬害根絶デー）にもチャレンジし、地域連携の特徴的な取り組みとして発展してきました。
3. HPHを患者・職員・組合員（地域）の3つの視点で設定し、全員が関わり継続しています。

【今後の展望】

1. 次期医療機能評価受審に向けた課題を抽出します。
2. 法人の10年構想を理解し、薬剤師職能の発展方向について方針を持ちます。
3. 院所で求められる専門資格の計画的取得（薬学6年制に伴う空白期間の影響を縮小）を行います。

【実績】

1. 採用医薬品数 1,407 (2014年) → 1,408 品目

新規採用医薬品数	51 品目
医薬品在庫率	56.95%
医薬品廃棄率	0.174%
2. 外来院内処方箋枚数 5,277 枚

院外発行率	平均 97.1%
入院処方箋枚数	66,508 枚
注射処方総数 (Rp)	305,365 件
注射セット件数 (Rp)	215,304 件
注射セット率 (Rp)	70.5%
3. 薬剤管理指導業務
 - 1) 入院服薬指導実人数 8,142 人

指導回数加算無含む	22,324 回
1人当たり指導回数	2.7 回
 - 2) 退院時薬剤管理指導数 4,232 人
4. 無菌調剤件数
 - 1) TPN無菌調製件数 1,279 件
 - 2) 外来化学療法件数 555 件
 - 3) 入院化学療法件数 370 件
 - 4) 無菌製剤処理（細胞毒性）件数 851 件
 - 5) 携帯型ディスプレイ混注件数 2 件
 - 6) 院内製剤 30 種に対応
5. がん化学療法レジメン管理数
 - ①呼吸器 26、消化器（②大腸 24、③胃 15、④食道 3、⑤GIST 2、⑥膵・胆 6、⑦肝 3）、⑧乳腺 17、泌尿器（⑨前立腺 2、⑩膀胱 4、⑪腎 2）、⑫悪性リンパ腫・造血器 17

6. DI業務

- 1) 質疑応答 291 件

外来DI質疑応答	78 件
----------	------
 - 2) 『DIニュース』12回発行 (No.546 - No.557)、ほか新薬特集号1回
 - 3) Phase IV 市販後臨床試験4剤5例

副作用詳細調査	9 例
---------	-----
7. 安全管理業務
- 1) 副作用報告 全日本民医連 40 件、厚労省 (PMDA) 40 件
 - 2) 医薬品副作用被害救済制度 申請 3 件 / 認定 4 件
 - 3) プレアボイド報告 140 件、日本病院薬剤師会へ報告 6 件
 - 4) 中毒対応件数 42 件

【教育・研修・研究活動・学会等への投稿実績】

- ・第20回日本緩和医療学会学術大会
『当院緩和ケア病棟における栄養実態調査』
- ・日本病院薬剤師会雑誌 2015年9月掲載
『胃がん術後 S-1 補助化学療法の完遂率の調査および薬剤師による投与継続に対する取り組み』
- ・日本病院薬剤師会関東ブロック第45回学術大会
『がん化学療法を安全に実施するために薬剤師ができること～当院における常駐薬剤師の役割～』
- ・第9回川口市医学会総会
『VCMにおけるTDM介入率と精度、今後の課題』
- 『当院4年間の胃がん術後補助化学療法 S-1 の完遂率の調査』
- ・第12回全日本民医連学術・運動交流集会
『CPT-11療法の用量による安全性とUGT1A1遺伝子多型との関連の検討』
- 『HPVワクチン接種の実態調査からみえてきたもの』
- ・第4回埼玉民医連学術・運動交流集会
『埼玉協同病院における持参薬の実態把握と持参

薬管理業務を考える』

『特定抗菌薬の使用届け出開始による患者への影響』

『トラゼンタの試用評価とD P P 4阻害薬の位置づけを考える』

『HPVワクチンの安全性と子宮頸癌検診について考える』

17. 検査科

臨床検査科 部長 村上 純子

検査科 科長 大久保智子

1. 概要

今年度の入職者2名、退職者1名、勤務形態の変更1名、法人内のローテーションで2名の異動と2名の産休者がありました。

A T (アンチトロンビン)、T A T (トロンビンアンチトロンビン複合体)、I P F (幼若血小板比率) を新規に開始しました。アルブミンの測定方法をB C P改良法に変更しました。

更新した機器は脳波計です。光学顕微鏡が1台と自己血貯血用の冷蔵庫が更新されました。

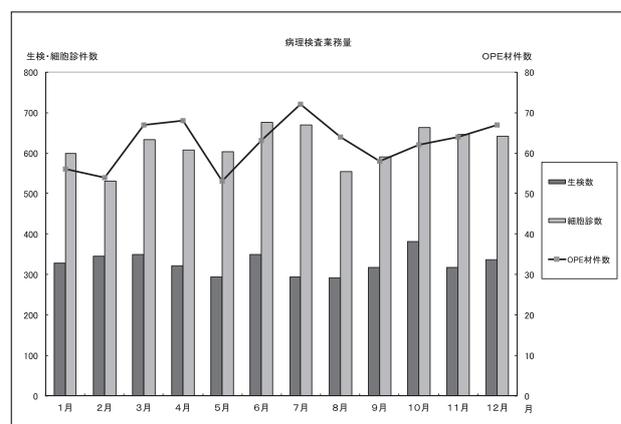
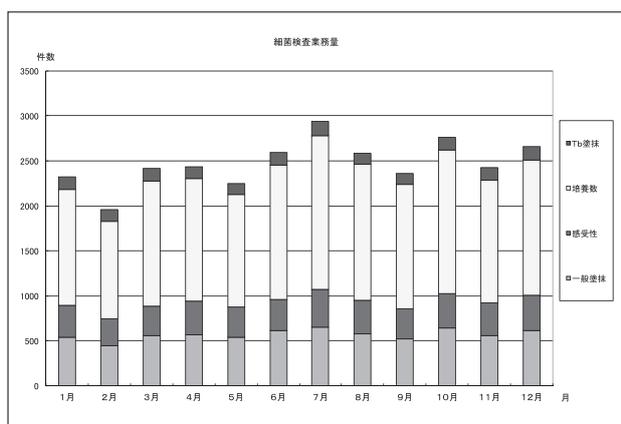
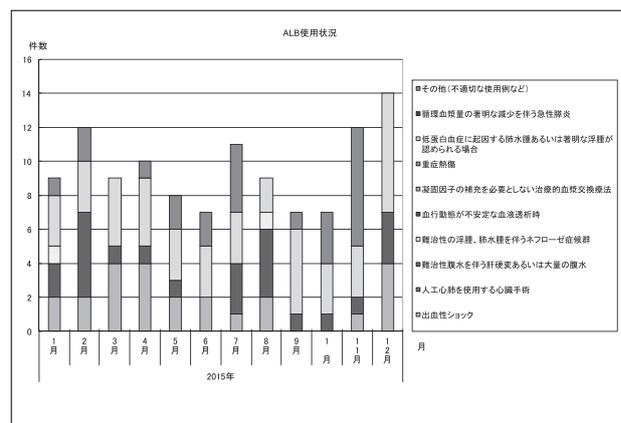
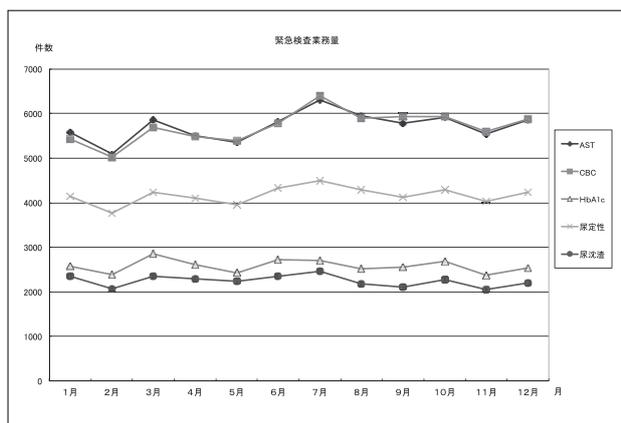
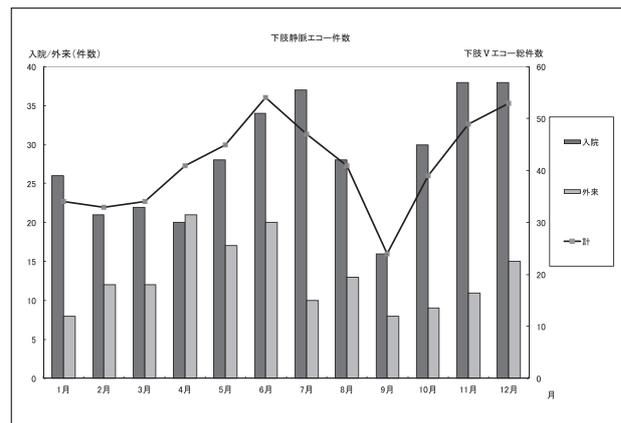
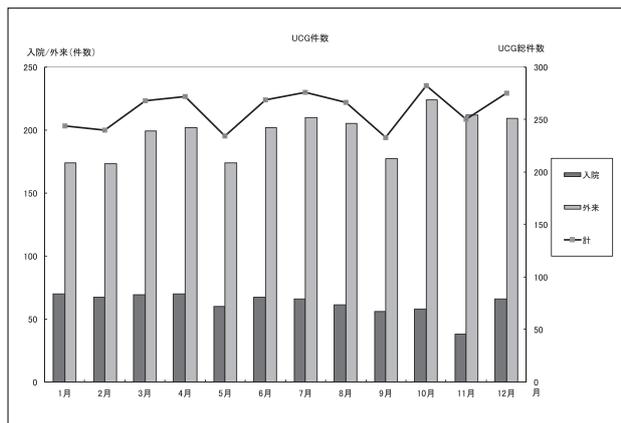
◆臨床検査医の立場から

臨床検査医は、臨床検査技師と協力して、検査が正しく実施され(精度管理)、正しく利用される(適正使用)ように努めています。検査を通じてメディカルスタッフに教育的に関わることも要求されるため、アメリカではDoctor's Doctorとも呼ばれています。当院でいうと、院内感染防止対策、臨床検査適正使用、適正輸血推進が検査医のフィールドです。

2015年の検査科は、常に「第三者評価」を意識して業務を展開してきました。ルーチン業務は外部精度管理で、技師のskillは資格認定試験で厳正に評価されます。また、常勤技師24名中8名(重複無し)が全国レベルの学会で研究発表を行いました。誠にたぐいまれな検査科になりました。引き続き精進したいと思います。

◆臨床検査技師の立場から

2015年は新入職員、法人内外の臨床検査技師の研修受け入れ、院内ローテーションに伴うものなど研修に明け暮れた印象のある年でした。そのような中でも資格取得や学会発表などに取



り組んでいただいたスタッフに感謝です。

2級検査士(細菌)2名 一般臨床検査士1名

2. スタッフ

医師1名 村上純子(臨床検査専門医・輸血専門医・血液専門医・血液指導医・ICD)
臨床検査技師35名(常勤23名 非常勤12名)
細胞検査士4名 国際細胞検査士4名 認定超音波検査士(消化器)4名 認定超音波検査士(表在)4名 認定超音波検査士(心臓)1名 認定血液検査技師1名 緊急検査士5名 2級検査士(血液)4名 2級検査士(病理)3名

3. 業務内容

生理学的検査、血液学的検査、生化学的検査、免疫学的検査、一般検査、輸血関連の検査、細菌学的検査、病理学的検査を行っています。

2014年に比べUCG検査は増加(外来で増加・入院で減少)、下肢静脈超音波検査が著増(外来・入院とも増加)、緊急検査室業務は全体では微増傾向(CBC・HbA1c・尿定性検査で増加、尿沈渣は減少)にあります。細菌検査室業務は一般

細菌で増加、結核菌塗抹は減少していました。病理検査室業務では細胞診検査は増加、生検数は減少傾向にあります。

4. 教育研究活動

◇学会発表

- ・第89回日本感染症学会 『慢性中耳炎からの波及が考えられたE S B L産生大腸菌による細菌性髄膜炎の1症例』
- ・第16回日本検査血液学会学術集会 『急速に進行する腎機能障害を呈した多中心性キャッスルマン病 形質細胞型の一例』
『ADAMTS13低値で、Inhibitor陰性の血栓性微小血管障害(TMA)が認められた一例』
- ・第47回日本臨床検査自動化学会 『感染症診療におけるプレセプシンの有用性』
『簡易血糖測定器の制度に関する検討』
- ・第140回日本輸血・細胞治療学会 関東甲信越支部例会
『当院におけるアルブミン製剤管理の変遷』
- ・第61回日本臨床検査医学会学術集会 『人工股関節全置換術における深部静脈血栓症の検討 ～下肢静脈エコー VS 凝固・線溶系検査(第2報)～』
『当院における輸血後感染症検査実施率向上の取り組みと課題』
その他、法人内外で研究発表を行っています。

5. その他

埼玉県合同輸血療法委員会、埼玉県臨床検査技師会病理研究班の活動に参加しています。

18. 放射線科・放射線画像診断科

放射線画像診断科 科長 松本 茂

■放射線科

【人員体制】

部長 吉田英夫(放射線診断専門医)

医員 岡崎百子(放射線診断専門医 核医学専門医)

【特徴】

上記2名の常勤医および常勤換算0.5名の非常勤医でCT、MRIを中心とした画像診断、読影を行っており、画像管理加算を取得しています。各診療科、各主治医との連携を密にし、適正な検査および迅速な診断に至るよう日々努めています。

■放射線画像診断科

【人員体制】

診療放射線技師 常勤22名 非常勤1名

(科長1名、主任1名、副主任1名を含む)

事務 非常勤3名

【特徴】

各診療科から依頼される各種検査および健診を中心に業務を行っています。画像を提供するだけでなく、診療放射線技師として医師による画像診断の補助に積極的に関わることを目指し、CT、超音波検査、上下消化管造影検査では技師コメントを読影レポートに記載しています。

また、画像診断の結果が確実に診療に活かされるよう放射線技師が読影レポートの内容と受診状況を確認し、必要に応じて主治医に報告するフォロー体制を確立し、毎日の業務としています。

【資格】

施設取得認定

検診マンモグラフィ認定施設

医療被ばく低減施設認定

個人取得認定

放射線管理士	高沢愛美	三枝美咲
検診マンモグラフィ	新島正美	戸次美紀 成田恵里子
撮影診療放射線技師	高沢愛実	佐藤夏都美
超音波検査士（消化器）	新島正美	成田恵里子
超音波検査士（体表臓器）	新島正美	成田恵里子
胃がん検診専門技師	松本 茂	
埼玉放射線技師会胸部認定	大谷祐貴	

【学会所属人数】

所属学会	所属人数
診療放射線技師会	13
日本乳腺・甲状腺超音波医学会	1
日本超音波検査学会	2
日本超音波医学会	1
日本乳癌検診学会	1
日本消化器がん検診学会	1

【実績】2015年1月～2015年12月

検査名	検査数
単純撮影	47,349
ポータブル撮影	9,074
CT	15,004
MRI	5,703
X線TV	2,418
血管造影	396
乳房X線撮影	1,653
骨塩定量測定	1,068
ESWL	602

【総括】

1. 放射線画像診断科症例発表会をはじめモダリティごとの症例検討会を開催することで、読影知識向上を目指し取り組んでいます。
2. 胸部X線撮影、CT、MRI、健康診断画像検査の読影フォローを継続的にを行い、検査結果が確実に診療に活かされるよう取り組んでいます。
3. 院内の委員会の他に部門内のリスクマネージャーチームを設け、インシデント・アクシデントの分析・是正に積極的に取り組んでいます。
4. 医療被ばく低減認定施設として、医療被ばくの適正化、病院職員への教育、利用者に対する医療被ばく相談に取り組んでいます。

19. リハビリテーション技術科

科長 遠藤正夫

【人員体制】

2015年12月現在

理学療法士30名 作業療法士13名 言語聴覚士5名 歯科衛生士2名 事務1名

【総括】

- ・回復期病棟ではADL改善率の向上を目的に、充実加算の維持を行いました。
- ・内科病棟では入院患者様に対し、早期からのリハビリテーション開始率が向上しました。
- ・がん患者リハビリテーション料の算定を開始しました。
- ・医療生協さいたまの組合員の方が開催する保健予防活動に20件以上参加しました。
- ・歯科衛生士を配置し、業務の確立を行いました。
- ・卒後研修計画を作成し、計画通り実施しました。

【次年度課題】

- ・回復期病棟では引き続きADL改善率の向上に取り組みます。
- ・内科病棟での早期リハビリテーション実施を引き続き実施します。
- ・整形外科病棟では人工関節におけるリハビリテーション効果について研究を実施します。
- ・病院における歯科衛生士業務についてまとめを実施します。
- ・近隣施設との連携を強化します。
- ・地域の方に対して運動教室を開催します。

【業務内容】

入院・外来リハビリテーション
 多職種カンファレンス
 家屋調査（退院前訪問指導）
 自主トレーニング指導（退院時指導）

介護保険サービス移行に関する相談
保健予防活動
患者会活動 のびる会担当 (脳卒中患者会)
高校生専門職体験

【教育・研修・研究活動・学会等への投稿実績】

- ・第25回全日本民医連神経リハビリテーション研究会
鈴木史織 理学療法士
演題名：当院回復期病棟での他職種参加型症例検討会のこれまでの経過と今後の課題
- ・第12回全日本民医連学術・運動交流集会
掘田一樹 理学療法士
演題名：基本的動作評価スケールの運用とトイレ関連項目自立、在宅復帰に基本的動作と在宅介護スコアが及ぼす影響について

20. 食養科

科長 吉田昭子

【人員体制】

- ・管理栄養士 常勤10名 (産休2名含む)、非常勤9名
- ・栄養士 1名
- ・調理師 常勤13名、非常勤3名
- ・調理補助者 11名

〈専門資格〉

N S T 専門療法士2名、糖尿病療養指導士3名、健康運動指導士3名

・特徴

(入院) 38年間、直営給食で、患者様の声を活かした献立の見直しや食育を中心に訪問活動を行っています。安心、安全な食事を提供するために、ニュークックチルシステムを2003年より導入しています。管理栄養士は、低栄養の改善のために、N S Tと連携しています。

(外来) 患者様が主体的に目標を立て、継続的に実行できるようにご支援しています。近隣の開業医様からの食事相談のご依頼もお受けしています。

(地域) 地域住民の健康を守るため、管理栄養士、調理師が健康講座や調理講習会に多く出かけています。特に、減塩食「すこしお」の普及に取り組みました。

【総括】

1. 食事は、安全で衛生管理を基本として、IH再加熱配膳カートを16台更新しました。主菜、副菜、汁物の3点加熱の仕様に献立を見直しました。
2. 院内の食事形態の適応基準の見直しを行いました。多職種向けに学習会を行い、認知度を高めました。
3. 入院中の食事相談は、退院後も継続できるよ

うに、外来食事相談の予約をすすめ、継続的な支援に取り組みました。

4. 調理師による病棟訪問は、月平均 80 件となりました。

【今後の展望】

がん、低栄養、摂食嚥下困難の方、在宅の食事相談に力を入れます。

食事は、学会基準に基づき、個々にあった食形態の追求、食のサービスを追求します。近隣施設の連携を強化し、自宅に帰ってから役立つ食生活支援をしていきます。

【実績】 2015 年 1 月～12 月

1. 外来食事相談件数 3,939 件 (月平均 328 件)
2. 入院食事相談件数 延べ 3,422 件 (月平均 285 件)
3. 集団食事相談件数 231 件 (月平均 19 件)
4. 在宅食事相談件数 27 件 (月平均 2 件)
5. 入院患者食数 274,066 件 (月平均 22,839 件)
6. 特別食加算の割合 月平均 45.3%
7. 1 食あたり食単価 月平均 260 円

【教育・研修・研究活動・学会等への投稿実績】

- ・埼玉民医連学術・運動交流集会 3 演題

21. ME科

科長 吉川雪子

【人員体制】

臨床工学技士 11 名 (科長 1 名、副主任 1 名を含む)

〈専門資格〉

透析技術認定士	7 名
3 学会合同呼吸療法認定士	2 名
第 1 種 ME 技術者	1 名
臨床 ME 専門士	1 名
第 2 種 ME 技術者	11 名
医療機器情報コミュニケーター (MDIC)	1 名

【特徴】

医療機器の高度化が進む中、医学的知識と工学的知識を兼ね備えた臨床工学技士の役割は大きいと常日頃感じています。医療機器の専門職として点検・修理など ME 機器を中央管理することで安全性、信頼性の高い医療機器の提供を目指しています。

また在宅療養される患者様やご家族へ在宅医療機器 (HOT、NPPV、TPPV、HPN など) の使用方法の説明を行い、安心して療養生活が送れるよう支援しています。透析件数は 1 万件を超える実績を上げ、多くの患者様を受け入れ、それぞれのニーズにあった治療を目指しています。従来の透析治療に加え、On-Line HDF を開始して合併症予防に努めています。

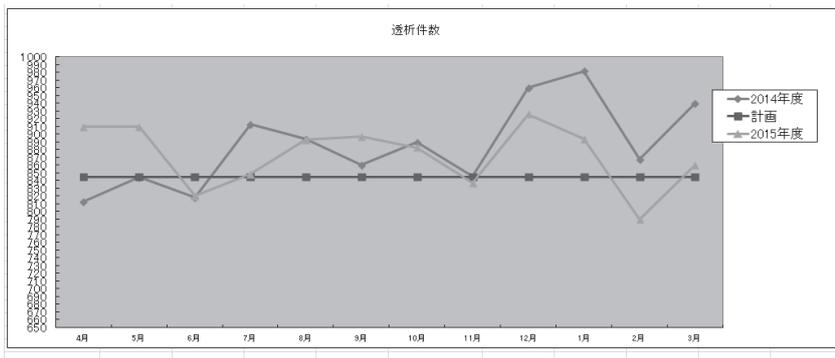
【業務内容】

慢性腎不全における透析療法、集中治療における CRRT やエンドトキシン吸着、その他腹水濾過濃縮療法や CAP 療法などの特殊透析療法を行っています。

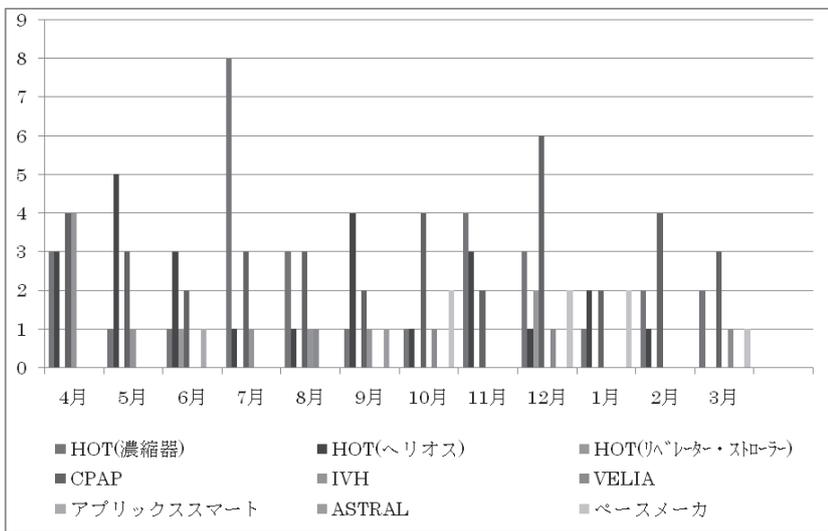
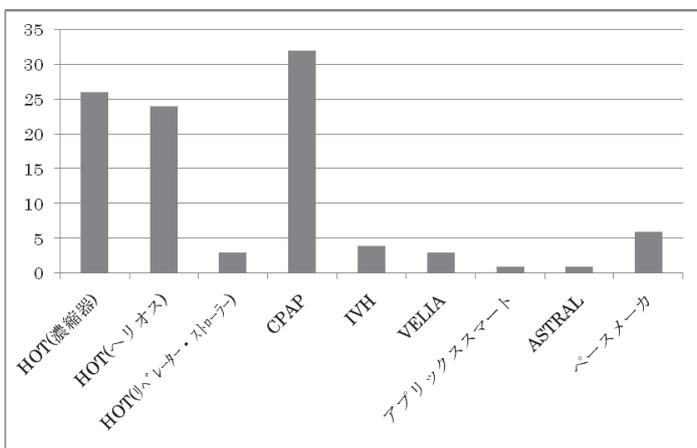
また院内 ME 機器の中央管理、保守点検業務、ペースメーカー業務、OPE 業務などを行っています。

【実績】

・透析件数



・在宅医療機器指導件数



【教育・研修・研究活動・学会等への投稿実績】

- ・第39回全国腎疾患管理懇話会学術大会 (大阪)
『日機装社製透析用監視装置 DCS-100NX D-FAS の使用経験』
- ・全日本民医連学術・運動交流集会 (大阪)
『当院の維持透析患者における睡眠障害に関する

アンケート調査』

- ・第4回埼玉民医連学術・運動交流集会 (埼玉)
『当院における透析用監視装置洗浄剤 (サナサイドEP) の使用経験』
- 『医療機器関連のリスクの現状と対策』
- 『IPW研修を通して学んだこと』

22. システム管理課

課長 石田和夫

【人員体制】

- ・常勤：3名
- ・資格：医療情報技師（2名）

【特徴】

電子カルテをはじめとして、病院内の医療に関わる記録や事務的な仕事のほとんどがコンピュータで行われており、病院内にコンピュータが約500台あります。そのコンピュータシステムの運用・管理を行っているのが、システム管理課です。

大きな役割（職場の使命）として、次の4点を掲げています。

- 1) 情報システムの適切な運用を行います。
- 2) 医療の安全性に寄与し、診断治療をバックアップできる情報システムを提供しています。
- 3) 医療経営情報の把握できるシステムを開発し、医療の質の向上に貢献します。
- 4) 資質の向上に努め、法令遵守をすすめます。

【総括】

1. 電子カルテ更新をふまえ、新たな発展を図る。

2015年度は、2014年9月に10年ぶりに電子カルテ更新をして、半年を経過した時点の年度でした。電子カルテ更新は大きな混乱なく行うことができ、その土台に立って、新たな挑戦に向かう年でした。

次のような目標設定を行いました。

- ・汎用（処置オーダー）の改善を図る。特に病棟看護師の処置入力を看護ケアに一本化し、業務の効率化と汎用・検査オーダーの医事会計への確実な転送を行う。
- ・クリニカルパスの「バリアランスパス、日めくりパス」などの新たな機能を活用する。アウトカム評価の実現。医師の操作での負荷軽

減を図る。

- ・HPHの入力促進をはかる。日常診療でHPHを入力・活用できるシステム開発と、データ作成状況の把握ができるようにする。
- ・患者の問題点と対応が把握できるようにするためにプロブレム記載など新たな情報入力への促進を図る。
- ・がん診療拠点病院としての情報システム管理に取り組む。

電子カルテ委員会をはじめ各職種・委員会と協力して取り組みをすすめ、一定の成果を得ました。

2. 情報システムの安定的運用と個人情報保護のシステム強化。

2014年6月に日本年金機構の個人情報流出の事態を受けて、あらためて個人情報保護のシステム検証を行い、対応を図りました。

今までも、電子カルテを含めたすべての端末で、次のような対応を行ってきました。

- ・ウイルス対策ソフトの設定、最新状態の維持
- ・インターネットフィルターを設定して、参照ページの許可設定
- ・外部からの侵入を防ぐためのファイアウォールの設定
- ・USBなどの外部媒体への出力制限

しかし、電子カルテにつながっている業務系のパソコンでインターネット接続を可能にしたため、日本年金機構のようなサイバー攻撃を受けると、情報流出の可能性がありました。

そのため、電子カルテを含めた情報共有サーバに接続されているすべてのパソコンでインターネット接続ができないようにしました。

新たにインターネット専用のネットワークを構築し、すべての部門で活用できるようにしました。

【今後の展望】

1. 電子カルテの改善をすすめる。

各部門での活用や医療機能評価受審のためのシステム整備改善として、一定の予算の範囲内で、電子カルテ委員会などで検討して、改善を図ります。

基本は個別カスタマイズでなく、MegaOakの機能アップの導入をすすめます。

2. 電子カルテ資産の有効活用をすすめる。

ダイナミックテンプレートを活用した入力
の改善。

データ・ウェアハウスを活用した統計処理。

必要に応じて電子カルテと連携したアクセス
の活用。

3. クリニカルパスの活用を広げ、医療と経営の 質改善をすすめる。

バリエーションパスと日めくりパスの活用。合理
性のあるパス期間の短縮。

パス分析した情報提供をすすめます。

4. 情報システム整備を進める。

電子認証による情報提供や地域連携システム
が「電子的診療情報評価料」として診療報酬に
反映されました。算定できる体制ができるよう、
研究と整備をすすめます。

サイバー攻撃を防ぎ、電子カルテをはじめと
した個人情報の保全対策をすすめます。

・NECユーザーフォーラム2015 (11/13)

石田参加

・MegaOakHRユーザーフォーラム (7
/3、9/4、11/27、1/8、3/4)

大野参加

【教育・研修・研究活動】

・全職員対象の医療安全に関する学習と感染対
策に関する学習を実施しました。

・専門的知識を向上させるため、外部の学会や
研修会への参加

・国際モダンホスピタルショウ カンファレン
ス

「マイナンバー制度の医療分野での活用」

(7/16) 飯塚参加

「看護におけるモバイル活用と質評価の実際」

(7/17) 石田参加

23. 診療情報室

課長 野田邦子

【人員体制】(2016年3月31日現在)

- ・常勤 5名 非常勤 6名
- ・資格：診療情報管理士(4)、医療情報技師(1)
薬剤師(1)、臨床検査技師(1)、社会福祉士(1)
- ・認定：院内がん登録実務中級者研修修了(1)、
院内がん登録実務初級者研修修了(1)、A I
S Certification of Completion(1)、医師事務
作業補助者研修修了者(5)、がんクオリティマ
ネージャー養成講座修了(2)

・特徴

クオリティマネジメントセンター事務局として常勤職員全員が事務局会議に参加し、データ作成や分析作業、その他の実務を担いました。

【総括】

1. 医療記録・情報の管理

スキャナ文書の整理を行い、リストを確定しました。

2. 医療の質向上につながる質指標の測定や各種統計の作成

データの精度を高めるため、病歴システムの再構築およびコーディング項目の見直しを行いました。データ・ウェアハウスによるQ I測定範囲を広げ、また、がん症例ファインディング効率を10%以上に高めることができました。

3. 診療支援や学術研究活動の支援

文書作成支援の力量を高めるための学習に取り組みました。

4. 業務実績

○過去記録取り寄せ・貸し出し 207件(前年比57%)

○病歴登録管理(1～12月) 8,498件(前年比102%)

※退院所要約7日以内完成率91%(3%↑)、

14日以内完成率99%

○死因登録(1～12月) 474件(入院385、外来51、在宅38)

○診療情報検索・調査・提供 95件(学会疫学調査等31、その他64)

○主治医意見書作成支援 2,873件
(主治医意見書1,703件、訪問看護指示書1,311件、自立支援法に基づく診断書301件)

○地域がん登録 1,455件(前年比149%)

○院内がん登録 1,017件(前年比121%)

○NC D登録(1～12月) 766件(前年比95%)

○ニュース発行 1回

○カルテ開示 59件(申請に基づく29回、法に基づく照会33回)

○マイかるて新規登録 428件(前年比184%)

【今後の展望】

引き続き、データ精度管理、必要時必要なデータを活用可能な形で提供できるデータセンターの機能を高めます。活用に向けての発信力を高める施策を進め、職種別およびチーム医療としての記録の質的点検を院内的に取り組み改善を図ります。

【教育・研修・研究活動・学会等への発表実績】

(1) 外部研修

- ・院内がん登録新標準登録様式と運用に関する研修(3/25平嶋)
- ・第4回民医連Q I推進事業交流会(5/23金子)
- ・院内がん登録2014年全国集計のための品質管理ツールに関する講習会(9/25平嶋)
- ・埼玉県がん登録実務者講習会(7/28平嶋、小林)
- ・疾病コーディング(乃木坂スクール4月～8月計5回大津)
- ・医療福祉におけるデータサイエンティストを

目指す(乃木坂スクール4月-9月計12回
金子、平嶋)

・クオリティマネージャー養成セミナー(日本
医療機能評価機構6/10-11、8/20-
21 大津)

・全日本病院協会 MEDI-TARGET 操作説明会
(6/16 平嶋)

(2) 研究発表

①日本診療情報管理学会(9/17-18 岡山コン
ベンションセンター)

・医療記録の質向上を目指した患者による医療
記録監査の試み-患者閲覧用電子カルテを用
いて-(○野田・大津・金子・平嶋ら)

②医療の質・安全学会(11/22-23 幕張メッセ)

・パートナーシップを高める「マイかるて」(患
者閲覧用カルテ)のとりくみ第2報-患者に
よる医療記録監査のとりくみ(野田)

③2015年度埼玉民医連学術・運動交流集会(12
/20)

・日常記録からみるヘルスプロモーションの実
践(大津)

・“予期せぬ再入院”の分析から 再入院カン
ファレンス開催を呼びかけた取り組み~ヘル
スプロモーションの視点から~(金子)

・地域におけるがん診療の質を高めるために
院内がん登録から見たがん診療指定病院とし
ての役割と課題(平嶋)

・短期入院の経営に与える影響~病歴入力業務
からの気づき~(横尾)

・パートナーシップを高める「マイかるて」(患
者閲覧用カルテ)のとりくみ第2報-患者に
よる医療記録監査のとりくみ(指定演題、野
田)

(3) 部門内学習会

・「ぐつときた記事紹介」月初(4月野田、5
月福田、6月金子、7月松本、8月平嶋、
9月榎、10月小林、11月大津、12月横尾、
1月照山、2月野田、3月落合)

・日本国憲法を学ぼう-DVD学習(6/30、
7/6 全員)

・医療生協でできる健康チェック(9/14 全
員参加)

(4) 講演

・HPH Conference2015, Olso(6/12 Noda)
“Baseline data collection has clarified the
target area to be improved”

・記録学習会(2/26 浦和民主診療所、11/
26 熊谷生協病院)

医療記録は誰のもの(野田)

・第4回民医連Q I 推進事業交流会(5/23
野田)

民医連Q I 公開推進事業医療指標 Ver. 3 指
標の充実・体系化を行い、Q I 推進事業のス
テップアップへ

・民医連Q I 推進事業 指標 Ver. 3 説明会(10
/31 野田)

民医連Q I 公開推進事業医療指標 Ver. 3

24. 外来医事課

課長 桑田真央

【人員体制】

67名（常勤19名、非常勤31名、スタッフ職員3名、当直バイト13名）

・資格

診療情報管理士：2名、衛生管理者：1名

・特徴

外来医事課の病院での役割は、病院で行われる医療行為をしっかりと収入につなげることで、医療の質や接遇の質を維持することです。

正確な診療報酬請求を行うことで、保険者への請求、患者負担の計算を行い、病院の外来収入として大きな柱となっています。

また、業務全体の調整役としての業務も存在しています。会議やさまざまなチームの運営事務局も行っています。

内科チーム

21名（常勤7名、スタッフ職員1名、非常勤13名）

①内科急患外来

内科急患外来患者受け入れ、救急対応、転送の対応、医師補助業務。

②専門外来

糖尿病、呼吸器、循環器など、内科疾患の専門領域を扱う。

患者受入れ、予約管理、検査案内。

チーム会議の運営。

③内視鏡業務

内視鏡の予約管理、チーム運営。

外科チーム

23名（常勤8名、スタッフ職員1名、非常勤13名、派遣1名）

皮膚科、耳鼻咽喉科、眼科、外科、小児科、整形外科、泌尿器科、婦人科、各診療科の受付業務、

予約管理、検査案内。

各診療科会議の運営。

会計チーム

9名（常勤3名、スタッフ職員1名、非常勤5名）
専門内科、婦人科、中央会計における患者窓口負担の計算。

【総括】

1. 強い医療生協を作る視点

- ① 2016年診療報酬改定に対応し、医事課から情報発信を行います。
- ② 返戻減点を管理し正確な保険請求を行います。
- ③ 加入・増資の目標を達成させます。
- ④ 外来各診療科の予算達成（日当点、患者）を実現させます。

外来収益全体では予算比104.1%と超過達成できました。上期は患者減少、下期は患者増で推移しました。返戻・減点については有効な対策をとることができませんでした。加入・増資目標は部門目標を早期に達成することができました。

2016年度診療報酬改定については、部門で改定内容を共有し、診療科へ情報発信することができました。

2. 利用者要望の視点

- ① 「虹の箱」で要望の多い待ち時間について対策を行い、削減します。
- ② 接遇について対応し、患者満足度をあげます。
待ち時間についてはデータをとって対策をとることができませんでした。1月部会で接遇学習を実施し、18人が参加しました。電話対応の研修を3名行い、SP実習には新入職員3名が参加しました。

3. 確かな仕事作りの視点

- ① 文書レビューで要修正となった文書を、8月中に修正します。
- ② 2016年1～3月の3ヵ月間に180単位以上超勤のある職員がいない状態にします。

要修正となった文章が一部修正されませんでした。超勤については3月度180単位以上の職員が2名いましたが、10月度から2月度までは180単位以上の職員をゼロにしました。

HPH推進センターより超勤削減の取り組みについて「ベストチームワーク賞」を受賞しました。

4. 育ちあいの視点

①保険に関する学習会を実施し、テストの全員が合格している状態にします。

②SHJに関係する学習会を3回行います。

③エクセル・パワーポイントで最低限のスキルを設定して、学習会を開催、テストを実施して常勤全員合格します。

部会で保険の学習会を2テーマずつ程度行いました。エクセル学習会を行い、20名中11名が確認テストに合格しました。

5. 社会貢献の視点

①節電に積極的に取り組み、原発反対の立場を明確にします。

②社保カンパの目標を達成し、社会保障活動を円滑に行います。

ノー残業デーを実施しました。声かけができた時とできない時がありました。社保カンパは年度目標を達成し、広島・長崎の原水禁に2名参加することができました。

【今後の展望】

1. 新入職員から中堅職員までの事務育成指針を作成し、力量を安定的に維持します。
2. 医学管理ナビ、インターフェースの管理と活用を進め、正確な会計を進めるとともに、ルールにのっとった診療報酬請求を行います。
3. 医療生協、民医連の理念を日常業務の中で実践できる人材育成をすすめます。

25. 入院医事課

課長 野村健二

【人員体制】

- ・常勤：8名、スタッフ：2名、パート：10名
- ・資格（診療情報管理士4名）

【概要】

病院の医療収入の半分以上を入院診療が占める中、入院で行われる医療行為を正確に、かつ漏れなくお金に換えることは病院の経営にも大きく関わってきます。

私たち入院医事課では、保険請求業務をはじめ、病棟運営のためのデータ分析、医師アシスト・看護補助業務といった多岐にわたる業務を担い、医師・看護師が治療・看護に集中できる環境をつくり、患者様への質の高い医療の提供へつなげていきたいと考えています。

【総括】

1. 医療の質の改善につながる情報をチーム会議・病棟会議に情報発信します。

部会で「予期せぬ再入院」についての学習会やクリパス分析報告会、診療情報室と連携し、週1回の持ち回り学習会を実施し、医療の質分析等を行ってきました。また、職員の育成に力を入れ、常勤職員を中心に院内外の研修に参加してもらい、部会で報告会を開催してきました。

2. 患者満足度の向上を図ります。

毎年行っている医療福祉生協連の「退院患者満足度アンケート」の回収を強化し、回収枚数が過去最高となりました。そこで明らかになった医事課としての課題を16年度にかけて改善していきます。

3. 診療報酬制度を的確に捉え、正確な情報を院内へ発信し、16年度予算へ反映させます。

各種加算の算定要件やDPC制度について医

師・看護師に対し学習会を開催し、加算算定件数増加へとつなげることができました。また、16年度の診療報酬改定の学習会を医局及び全病棟で開催することができました。

【今後の展望】

1. 頼られる事務の育成
2. 分析・発信力の強化（ツールの活用・データで示し理解を得る）
3. マネジメント力の強化（病棟運営・経営について医師・看護師と連携）
4. 医療の質の分析・課題発見・提起
5. チーム医療への役割発揮

【教育・研修・研究活動・学会等への投稿実績】

病棟担当事務が持ち回りで毎月病棟分析データの交流会を行い、それを基に病棟会議やチーム会議でクリニカルパスの見直しや診療内容の見直しについて議論してきました。また、他部門向けに診療報酬に関する学習会やDPCに関する学習会を行い、常勤職員が講師を務めることができました。

院内のクオリティマネジメントセンターと協力し、「予期せぬ再入院」について分析し、「15年度全日本民医連Q I 交流会」で報告することができました。

その他、経営の視点を高めるために、セミナーやクリニカルパスセミナー、手術室運営セミナー等への参加を積極的に取り組んできました。

【学習会講師】

- ・医師法と療養担当規則
- ・関東信越厚生局が25年度に行った改善指摘事項について
- ・診療報酬改定学習会
- ・各種加算に関する学習会
- ・予期せぬ再入院学習会
- ・DPC制度について

26. 医療社会事業課

課長 竹本耕造

【人員体制】

- ・常勤9名（うち、育児休暇中1名）、非常勤1名
- ・資格：社会福祉士9名、精神保健福祉士1名
- ・特徴：
 - SWの数が、他病院に比べて多いのが特徴です。入院患者の退院支援のみならず、外来患者や受診していない方もどなたでも相談をお受けしています。

【総括】

1. 退院支援

早期介入を確実にしていく手立てとして、セーフマスターの活用を開始しました。加算算定件数を増加できました。老人保健施設「みぬま」との連携を深め、介護問題で入院希望の方の即日施設入所を実現しました。

2. 地域連携

近隣がん拠点病院や地域包括ケア病床・療養病院のSWを訪問し、業務交流や情報収集を行い、顔の見える関係を作りました。ケアマネジャー懇談会を開催し、在宅でのがん終末期の対応について理解を深められました。

3. がん研修

がん相談支援センター相談員基礎研修（1）（2）を新たに3名、（3）を1名修了させることができました。

4. 患者の受療権を守る取り組み

行政職員との懇談で国保一部負担金減免制度の必要性を訴えました。困りごと相談会や外国人健康相談会に参加しました。

5. 平和の取り組み

人権を守るには平和があつてこそ。平和を守る個人の思いを毎月コラムにし、院内通信で発信しました。

6. 日常業務報告：次頁月報参照

【今後の展望】

- ・地域の医療機関・介護事業所・地域包括支援センターとの連携を強め、認知症・高齢者世帯・がん・多問題事例等を地域で支えられるネットワーク作りに努めます。
- ・がん研修やコンフリクトマネジメント研修を継続的に修め、相談の質を向上させます。
- ・無料低額診療事業に関連する、経済的に困窮している事例の分析を行い、地域での手遅れ事例を生み出さないための取り組みを進めます。

【教育・研修・研究活動・学会等への投稿実績】

1. 研修

- ・がん相談支援センター相談員基礎研修（1）
（2）修了：近藤・堀江・水本
- ・がん相談支援センター相談員基礎研修（3）
修了：竹本
- ・全日本民医連医療介護倫理交流集会（札幌市）
参加：竹本
- ・全日本民医連 SW 中堅研修会（名古屋）参加：
田原
- ・全日本民医連被曝相談セミナー（東京）参加：
畠山・鳥山
- ・全日本民医連受療権を守る討論集会（東京）
参加：竹本
- ・日本病院会病院医療 SW 初任者研修会（東京）
参加：畠山
- ・がん就労支援相談員研修（埼玉）参加：畠山

2. 講師活動

- ・川口社会福祉協議会「精神障害者への対応について」：近藤
- ・市民公開講座にて、「がんに関わるお金の話」：水本

3. 学会発表

- ・埼玉民医連学術・運動交流集会
「当院における無料低額診療事業の取り組みに

ついて」近藤

「2012年～2014年の経済相談のまとめ」竹本

- ・埼玉県精神保健福祉士学会
「周産期の精神疾患をもつケースのチームアプローチについて」近藤

医療社会事業課 月報 2015年度

【相談件数】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総合計
延べ件数	1,019	876	1,056	1,031	958	969	1,069	1,049	1,065	1,063	1,010	1,110	12,275
実件数	611	510	655	600	581	577	641	612	641	610	626	666	7,330
新規件数	447	395	498	495	439	449	494	459	490	454	432	454	5,506
MSW一人当たり延べ相談件数	116	99.5	120	117	109	110	121	119	121	121	115	126	1,395
MSW数（常勤換算）	8.8	8.8	8.8	8.8	8.8	8.8	8.8	8.8	8.8	8.8	8.8	8.8	105.6
【利用別】													
入院	478	476	510	480	497	486	475	482	472	478	452	549	5,835
外来	454	336	480	420	395	426	525	501	503	491	464	461	5,456
往診	2	2	1	1	1	0	1	4	3	6	4	4	29
その他	81	57	51	49	61	51	58	50	72	79	84	88	781
【相談方法】													
面接	518	432	549	498	494	477	541	514	544	509	496	545	6,117
電話	492	430	482	441	395	481	512	510	499	538	498	546	5,824
訪問	5	5	8	7	3	4	3	12	3	3	9	8	70
その他	2	1	5	4	3	0		5	0	4	2	4	30
【相談対象（複数の場合は一人）】													
本人	312	264	379	332	269	321	366	363	392	338	315	353	4,004
家族	348	282	311	329	305	280	317	327	296	313	321	373	3,802
医師	4	1	3	2	2	3	3	2	2	5	4	5	36
看護師	3	2	6	1	2	2	2	41	5	1	0	2	67
他職員	2	0	0	2	3	1	3	0	1	0	1	0	13
法人内機関	39	41	51	54	48	38	71	41	58	41	45	52	579
法人外機関	302	266	255	299	310	318	293	308	295	356	322	321	3,645
組合員/その他	3	14	40	7	18	5	6	3	4	2	0	1	103
【新規紹介経路】													
本人	66	61	93	73	53	70	93	82	92	83	86	96	948
家族	76	59	86	81	72	57	86	81	68	74	79	85	904
看護師	42	30	50	49	46	55	56	44	46	61	57	52	588
医師	48	46	51	55	57	53	40	49	54	43	42	50	588
他職員	43	34	36	39	35	39	37	40	38	41	29	40	451
法人内機関	12	11	18	16	15	9	21	12	14	9	16	8	161
法人外機関	74	67	75	85	69	60	82	73	86	83	86	65	905
組合員,その他	50	41	17	2	6	1	2	1	2	2	0	0	124
当院MSW	2	1	42	39	37	36	36	35	34	38	27	38	365
【導入面接】													
精神科インターク	10	7	14	19	15	15	9	9	14	10	12	13	147
往診インターク	1	0	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	12
リハビリ評価外来インターク（休診中）	0	0	5	1	1	0	0	0	0	1	0	0	8
【相談内容（重複あり）】													
当院への転入院相談	113	72	69	77	49	82	88	70	78	85	99	90	972
受診・受療相談	104	58	107	82	77	64	91	118	81	72	72	93	1,019
経済的問題に関する相談	20	8	23	23	20	18	17	24	29	19	22	20	243
対人関係・家族関係などの調整	121	117	155	149	126	153	177	174	161	178	165	182	1,858
本人への療養上の援助	275	285	277	311	275	274	267	265	274	305	294	331	3,433
家族・知人への介護などの援助	114	97	85	82	89	62	71	63	69	71	66	115	984
退院計画と調整	230	244	226	224	224	227	209	217	223	217	202	227	2,670
社会資源の紹介と活用のための援助	152	116	188	154	139	166	172	164	188	180	155	127	1,901
介護保険にかかわる相談・手続き	128	110	124	117	152	100	144	108	125	127	117	122	1,474
療養支援会議	29	17	24	25	14	16	17	16	23	20	23	24	248
家屋調査	5	4	4	6	4	4	3	7	3	2	3	6	51
じん肺	4	0	2	0	0	0	0	7	4	2	6	2	27
生活保護申請	2	7	5	3	2	2	3	5	8	3	4	3	47
身体障害者手帳(H25.7~)	26	26	21	12	5	12	22	15	17	16	18	19	209
がん(H25.7~)	113	80	70	84	67	69	84	61	91	81	71	72	943
その他	54	42	58	43	63	47	56	56	58	69	62	70	678
医療安全相談窓口	2	7	2	2	1	1	0	2	2	0	2	0	21

27. 地域連携課

課長 松本浩一

【概要】

特徴、特色

- ・2015年4月より総合サポートセンターの本格稼働により部門編成が行われ、総合受付（電話センター含む）、入院受付が新たに地域連携課の業務に加わりました。総合サポートセンターでは「患者の要望や相談をワンストップで受け止める」ことを目標に掲げ、最初の窓口として各部門や診療現場へのスムーズな連携が行えるよう調整し、また急患対応や認知症患者への対応を向上させるためにBLS学習や認知症サポーター研修を行ってきました。

- ・昨年、大幅に紹介件数・紹介率が増加しましたが、今年も昨年同等の紹介件数を受け入れることができました。紹介率は増加しました。

2015年 紹介件数：534件／月平均（2014年：543件／同）

紹介率：36.9％／月平均（2013年：34.8％／同）

- ・近隣病院の地域連携実務者との定例会議や感染防止対策カンファレンスなどの会議も継続的にを行い、お互いの情報交換や質の向上、市内の地域連携の推進を目的とした取り組みをさまざまに行いました。

10／8に開催した「第32回地域医療懇談会」では過去最多となる44医療機関84名の方に来院していただきました。川口市医師会長をはじめ、川口市保健センター、川口市消防局など行政の皆様の参加もあり、地域の急性期病院としての役割や期待が高まっていることを実感しました。講演内容は外科技術部長の佐野医師より「乳がん検診の精度管理」と題して、乳がん検診全体の問題提起と当院の実績や対応について報告させていただきました。

【スタッフ】

地域連携：常勤3名（事務総合職2名、社会福祉士1名）、非常勤2名（事務）

総合受付：常勤5名、非常勤14名

入院受付：常勤1名、スタッフ1名、非常勤1名

【業務内容】

地域連携課の主な業務は、①診療情報提供書及び返書のデータ入力と郵送、②他院からの即日入院や受診窓口（高額機器検査を含む）、③訪問活動、に分かれます。

①診療情報提供書及び返書のデータ入力とアシスト業務

1ヵ月に600～700件前後の診療情報提供書及び返書を「病院名」「診療科」「目的」「病名または病状」などのデータとして集積しています。医師アシスト業務として「事務返書」（1次返書＝来院報告）や診療情報提供書の下書きも行い、適切なタイミングで返書の依頼も行っています。

②他院からの即日入院や受診窓口（高額機器検査を含む）

地域の開業医を中心に緊急入院の依頼窓口となっています。入院依頼をスムーズに行う業務手順として「ベッド調整」→「リーダー医師」への確認を5分以内で返答するようにしています。紹介元を待たせない対応を心がけています。

また各専門外来の受診・予約調整を行っており、患者・開業医のニーズに応じて適切に対応しています。MRI・内視鏡検査などの高額機器の共同利用の窓口にもなっています。

入院相談：月平均58件 受診相談：同185件
検査：同69件

③訪問活動

2015年は火・金を定期訪問日として近隣医療機関へ返書や検査結果の配送、開業医の先生方への訪問などを行いました。今年は訪問要員が2名になりました。

地域の急性期病院が主催する「地域連携の会議」には必ず出席し、連携実務者会議（4ヵ月に1回）も継続して参加しました。

28. 安全企画室

課長 宮崎俊子

【人員体制】

- ・専従医療安全管理者 1名（薬剤師）
- ・常勤事務 1名

患者と職員の安全をまもるためのさまざまな医療安全活動の推進と、公的文書の作成や申請・手続きを実施する病院機能管理の補佐の二面の役割を有しています。専従管理者と専任の事務で、役割分担して実施しています。

【総括】

1. 重篤事故を減らすために、医療安全委員会で計画した手立てに沿って転倒転落事故に対しては、電子カルテへの記録の仕組みを設定し、メディカルスタッフが情報共有しやすくなりました。
2. 医療安全の学習実施率向上のための手立てとして、例年のように事前の宣伝を実施しましたが、今年度は学習会の開催回数が昨年度より少なかったこともあってか、最終的な実施率が昨年度より低下しました。
3. 事故の是正処置が滞ることなく実施できるように、提出された事故報告書の修正処置の妥当性や是正処置の必要性有無について部門責任者に働きかけ、実際の対策立案においても援助を行いました。医療安全対策評価カンファレンスでは、是正の必要性や是正後の有効性の評価の確認などを提起して、より是正処置が確実に実施できる状況を作り出しました。
4. 職業感染の各種抗体価を高めるため、労働安全衛生委員会で計画した手立てに沿って、各種ワクチン接種が必要な職員への発信や摂取状況の把握を行いました。
5. 保険診療の施設基準の整備・向上のために、施設基準の要件一覧表を更新しました。許可病

床数と稼働病床数の調整を行い、7対1入院基本料の施設基準申請を行いました。

6. 節電アクションプランに沿って、気温に応じてエアコンの使用を意識的に操作しました。

【教育・研修・研究活動】

1. 医療安全委員会の事務局として、医療安全に関する教育の実施をしました〈委員会報告参照〉。
2. 全職員対象の医療安全に関する学習と感染対策に関する学習は、2名ともに実施しています。
3. 専門的知識を向上させるため、外部の学会や研修会へ参加しました。
 - ・全日本民医連 第4回Q I 推進事業交流集会 (5月23日、24日)
 - ・第4回埼玉県医療安全懇話会セミナー (6月20日)
 - ・医療機能評価機構 平成27年度第1回クオリティマネジャー養成セミナー (6月17日、18日、8月20日、21日)
 - ・医療安全へのヒューマンファクターズアプローチ 分析Basic編 (9月26日、27日)
 - ・第10回医療の質・安全学会学術集会 (11月22日、23日)
 - ・認定病院患者安全推進協議会 平成27年度全体フォーラム (3月12日)
4. 研修会講師・ファシリテータ
 - ・神奈川民医連 医療・介護安全 チームSTEPPS研修会 (4月18日)
 - ・山形民医連 医療・介護安全 チームSTEPPS研修会 (12月5日)
 - ・東京民医連検査部会 医療安全学習 チームSTEPPS (2月5日)

29. 組合員活動課

課長 熊倉正明

【人員体制】

- ・常勤4名 パート1名
(県南地域の担当者1名 川口市北部地域の担当者2名 東部地域担当者1名)

【概要】

組合員活動課は、住民の「健康で安心した暮らし」を実現していくために、医療生協の活動を知らせ、「参画」してもらい、全職員や他団体の協力のもと、社会に働きかけ、「地域まるごと健康づくり」を目指しています。

【総括】

(まちづくり) 地域の中に「医療生協の拠り所」がつくられ、医療・介護など「くらしのこまりごと相談役」としての医療生協の役割が発揮されるようになります。

⇒「支部リーフレット」を作成し、地域住民に広げました。

(健康づくり)「健診受診」「健診結果返し」「健康チェック」「健康づくり」の参加者が広がっています。

「脳いきいき班会」を全ての支部で開催されるようにします(未開催支部をなくす)。

⇒11/17の支部で「脳いきいき教室」が開催されました。

(組織づくり)「顔の見える支部活動」を「つながりづくり」で広がっていきます。

出資実人数を、全支部目標達成をさせ、100件増の広がりをつくります。

⇒全支部が目標を達成し、240件増の広がりをつくりました。

(ネットワーク地区制) 支部が川口市に要望・懇談を行っています。「地域包括ケアシステム」を

意識し、地域包括支援センターをはじめとした、諸団体との連携ができる支部活動にしていきます。

川口市自治体連絡会議が主催する「まちなみチェック懇談会」「健診・健康づくり懇談会」に全支部から参加しています。全ての支部で「地域包括支援センター」や「町会・老人会」等の他団体と連携した取り組みがされています。

⇒ 13の支部が懇談会に参加し、地域の他団体と連携した企画に取り組みました。

【今後の展望】

「医療生協らしい地域包括ケア」を目指していきます。

30. 健康管理課

課長 田中郁子

【人員体制】

- ・常勤5名、非常勤15名
- ・特徴

健康増進センターの運営を担当する部門であり、健康診断の予約から結果作成、健診後のフォローについても担当している事務部門です。健康診断に関する事務作業を担当しています。

【総括】

1. 健診からがんの早期発見につながるようにシステム課と連携し、当院受診者フォローの強化につなげるための、基本的数字を出す作業の改善がされました。がん検診数は前年を上回ることができました。
2. 健康づくり支援に向けて、健診情報を診療に役立たせるために電子カルテへの情報記入を開始し、健診後外来受診者へ記入がすすみました。
3. 健診システムを新システムに移行するため、準備をすすめ、4月1日稼働をすすめました。
4. 健診結果にそって、要精密検査者への受診勧奨をすすめるために、保健師と協力して連絡のとれない受診者への連絡方法の改善を図りました。
5. 「健康増進センターたより」の発行を1年間毎月発行しました。

【今後の展望】

1. 健康づくり支援のために、保健師と協同して、健診受診日より介入できるよう仕組みをつくっていきたいと考えています。また、特定保健指導の当日実施を前年より増やし、受診者への指導援助を強化したいと考えています。
2. 健診から得られた情報を診療に活かすことができるよう、引き続きカルテへの情報集中をす

すめています。

3. 健診後の受診勧奨をすすめ、がんの早期発見に貢献していく取り組みを強化していきたいと考えています。
4. 「健康増進センターたより」は受診者へ情報提供できる紙面づくりをすすめ、内容を充実させていくためにも関係する部門数も広げていきたいと思っています。

【教育・研修・研究活動・学会等への投稿実績】

- ・認知症サポーター養成講座 19名参加
- ・メンタルヘルスチェックのための厚生労働省主催学習会参加 1名

31. 資材課

小池綾一

【人員体制】

- ・常勤2名 スタッフ職員1名
- ・特徴

病院で使用する、医療材料・伝票類（印刷物）・事務用品などの購買業務を行っています。

また、診療報酬改定時はもちろん改定のない年度もベンチマークなどによる価格低減を行っています。

【総括】

1. 医療材料に関わる費用の削減をし、安全性、経済性を追求し、経営の改善をめざします。

①手術室での物流業務の効率化を行い、運営分析に関わります。

- ・手術室支援業務化を進めてきましたが、10月に提案の見直しをすることとなりました。
- ・支援業務を行える委託業者を今年度中に選定し、次年度の目標課題としました。

②医療消耗品のベンチマークによる価格引き下げで10品目以上交渉できています。

- ・31品目をベンチマーク活用して削減効果を出しました。
- ・経過措置分の価格交渉を5回実施して遡及を行いました。

③全病棟で資材倉庫からの医材臨時持ち出し件数が前年度実績を下回りました。

- ・10月に倉庫を施錠したことで前年度比の件数は減少していますが、各部門の棚にある定数品の持ち出し・納品までのタイムラグ（定数の不足等）・カードの紛失に気付かない等の原因の究明が今後の課題です。

2. 消耗品、その他に関わる費用の削減をし、安全性、経済性を追求します。

- ①消耗品・印刷物の価格見直しやS P D化による在庫管理でコストの削減を行い、前年購入実績を下回りました。
- ・消耗品及び備品について、「再生利用ステーションニュース」を7回発行し、朝会で呼びかけました。
 - ・継続的に推進を行い、次年度は依頼件数100%実施を図ります。
 - ・今後も価格見直しやS P D化をしていきます。

【今後の展望】

次年度は、償還改定の年度ですので、価格交渉を実施し、結果を追求します。

【教育・研修・研究活動・学会等への投稿実績】

- ・全日本民医連 医療材料購入担当者会議
 医材をめぐる情勢の学習と全国の動向を知り、医療材料の他県の動向を把握し自院の価格交渉に生かしました。

32. つくし保育所

丸岡京子

【人員体制】

- ・21名（常勤3名、非常勤18名）
- ・資格（保育士免許15名、調理師1名）
- ・特徴

医療生協さいたまに勤務する職員のお子様を保育しています。

医師、看護師、介護職、技術職、事務職等の産休明けから2歳児までを中心に0歳、1歳、2歳以上の3つのクラスに分け、保育を行っています。臨時保育、休日保育、夜間保育、病児・病後児保育も行っています。よく遊び、よく食べ、よく眠る、を3本柱に心身ともに健やかに元気に過ごせる子どもを目指しています。

【総括】

1. 子育て支援活動の取り組み

6月に病児保育を開設しました。小児科と保育所で連携を密にとり、子どもが安心して過ごせるように心がけながら、保育を行いました。医師、看護師、技術系、事務系等多職種からの利用がありました。利用しやすい病児保育室を目指し、定期的に小児科と検討を行いました。

また、今年度は障がい児保育にも取り組みました。

地域の子育て支援では公開保育を5回実施しました。合計14組の親子の参加がありました。給食体験では家庭での参考にしていただくため、親子で食べてもらい、形態、固さ、味付けなどをみていただきました。とても好評でした。

また、職員や地域を対象にした育児講座を2回開催しました。外部講師を招き、子どもの発達や子どもとの関わり方など子育てについて深く学びました。合計54名の親子の参加がありました。

2. 職員の専門性、資質向上

保育士としての専門的な知識、技術を習得するため、外部研修に5名参加しました。研修後は部内で報告を行い、職員で共有し保育に役立てることができました。

【今後の展望】

さらなる職員や地域の子育て支援に努めます。保育士の育成、資質向上を目指します。

【実績】

1. 在籍児数 33名
2. 臨時保育児実数 52名 (年間延べ数241人 月平均20名)
3. 夜間保育児実数 19名 (年間延べ数261名 月平均21名)
4. 病児・病後児保育実数 28名 (年間延べ数47名 月平均5名)

【教育・研修・研究活動・学会等への投稿実績】

- ・民医連保育研修会 1名参加
- ・保育合同研究会 1名参加
- ・東日本小児医療研究会 4名参加
- ・埼玉県保育士・幼稚園教諭の資質向上研修 1名参加
- ・アレルギー疾患研修会 1名参加
- ・東日本小児医療研究会 1演題発表
- ・埼玉民医連学術・運動交流集会 1演題発表
- ・子育て支援講座開催 計3回
「楽しくなる子育て」
講演者：めだか保育園園長 黛 秋代
「子育ては親育ち」
講演者：新婦人埼玉県本部 高田美恵子

33. 総務課

課長 松川 淳

【人員体制】

- ・常勤4名、スタッフ1名、非常勤1名
- ・特徴

総務、人事、経理、福利厚生、出資金関連、庶務など、職員が仕事を行うために必要な環境面や制度面についてサポートしています。また、医療生協さいたま共済会の窓口として、企画の案内や文化・スポーツ補助、医療費補助の受付を行っています。

院内の会議室やパソコンなどの物品管理を行い、会議や学習会などの環境をサポートしています。郵便物や宅配物の受け取りと仕分け、機関紙誌の配布を行い、職員への情報提供を速やかに行っています。

出資金の加入・増資、減資・脱退などの窓口として、組合員さんや職員の対応を行っています。部門ごとに取り扱った加入・増資を集計し、一覧表を作成しています。

院内の公衆電話、病室のテレビ、売店や自動販売機など、院内の公共物の窓口にもなっています。

【総括】

1. 職員サービスの充実を図ってきました。
 - ①転居、通勤方法の変更など届け出が必要な書類をセット化し、書類提出の漏れがないようにしました。
 - ②職員駐車場の割り振りを見直し、目的ごとに駐車場所を設定するようにしました。
 - ③制服の更新を円滑に進めるため、更新する職種(職場)と業者の間を取り持ち、3種類の更新を行ってきました。

2. 利用者の視点に立ち、相談しやすく立ち寄りやすい窓口を目指してきました。

①その場で解決できない問題について、他部門の力を借りて対応してきました。

②情報提供のツールとして、院内報の「通船掘」を12回発行してきました。

【今後の展望】

1. 勤怠システムの導入を行います。
2. 職員に役立つ情報の提供を行います。
3. 書類等の管理方法について検討します。

34. 環境管理課

課長 小野秀敏

【人員体制】

スタッフ数：3名（常勤2名・パート1名）

主な資格：ボイラー技士1級・2級、エネルギー管理員、危険物取扱者（乙4類）、大気関係公害防止主任者・水質関係公害防止主任者・高圧ガス製造保安責任者（液化酸素）、甲種防火管理者、甲種防災管理者、建築物環境衛生管理技術者（ビル管理士）、第2種電気工事士

【総括】

1. 埼玉県排出量取引制度について目標値比105%となり、達成できませんでした。
2. 老朽化した設備監視システムの更新を実施しました。
3. 自家発電設備の給油のルートについて確保し、災害時でも対応できる体制となりました。

【今後の展望】

1. 老朽化した施設設備の更新計画の立案と実施
2. エネルギー供給会社の検討、クリーンエネルギーの検討による環境負荷軽減
3. 非常災害マニュアル、BCPマニュアルの改訂等、災害対策の強化と、災害に強い病院づくり

35. 教育研修室 (教育研修センター SKYMET)

課長 市川大輔

1. 概要

埼玉協同病院教育研修センター (Saitama Kyodo-hospital Medical Education and Training Center)、略称SKYMETは、埼玉協同病院の教育と研修を担うセンターとして2011年3月16日に活動を開始しました。

SKYMETは、高校生の体験企画、医学生対応、医師の初期研修、後期研修・専門研修および指導医講習会などの生涯研修の充実をはかることを目的に、広く医学生や地域でご活躍の先生方に教育研修活動を公開し、より連携を深めています。また、「SKYMET」ホームページ・Facebookなどの広報宣伝も力を入れています。

2. スタッフ

センター長：雪田慎二 副院長・法人理事長・初期研修プログラム責任者

事務局長：市川大輔 教育研修室課長

スタッフ：高橋卓哉 教育研修室主任

小幡国子 教育研修室副主任

緒方あゆみ

千葉孝二

芦野 朱

運営委員：関口由希公

後期研修責任者 (さいわい診療所所長)

田中宏昌

初期研修責任者 (内科医長)

小野寺由美子

教育担当管理 (看護副部長)

本戸文子 医師担当管理 (事務次長)

我妻真己子 医局事務課課長

3. 業務内容

- ①新たな初期研修プログラムの開発
 - ・初期研修および後期研修プログラム
 - ・シミュレーター等による教育、シミュレーター管理 (Skills Lab 室管理)
 - ・医師再教育プログラムの開発 (診療所医療、総合診療、女性医師 etc.)
 - ・多職種の研修プログラムとの連携
- ②指導医・指導者養成 (臨床研修指導医講習会を毎年開催)
- ③カンファレンス、学習会、研究会の支援
 - ・学習会、研究会の開催支援
 - ・近隣での研究会情報の収集と公開
- ④教育研修の地域連携・交流
 - ・外部講師の招聘による学術講演、カンファレンス指導、ER指導、研修症例カンファレンスなど交流の実施
- ⑤ホームページ、出版物による活動成果の公開
- ⑥初期研修、後期研修修了者のフォローアップ
- ⑦IPW研修等のメディカルスタッフを対象とした教育研修 (企画チームの総称：SKYcoMET)
- ⑧医学生対応 (病院見学、研修説明会の開催、合同説明会への参加、奨学金説明会の開催、奨学生対策)
- ⑨高校生の医学部合格までの支援 (一日医師体験の開催、模擬面接の実施、合格お祝い会の開催)
- ⑩さいたま総合診療医・家庭医センターSGFAMの運営・管理 (レジデントデーの開催、ポートフォリオ発表会、ホームページ管理 etc.)
- ⑪法人医師部の企画共催 (新入医師歯科医師歓迎会、医師部会総会 etc.)

4. 教育研究活動

5月		
5月22日 (金) 13:00~20:30	E R指導 カンファレンス 講演会	SKYMET講演会 「ERトラブル事例の教訓」 講師：寺澤 秀一先生 (福井大学) テーマ：寺澤先生の経験事例をもとに多くの教訓を学ぶ。 患者に寄り添うこと、周囲への気配り等を先生から学ぶ。
6月		
6月6日 (土) ~7日 (日)	研修会	IPW研修 テーマ：中堅職員として、チームを動かす力の向上を図る 企画：教育委員会、SKYcoMET共催 ※IPW…インタープロフェSSIONナルワーク、専門職連携実践
7月		
7月18日 (土) 14:00~16:00	ガイダンス	後期研修ガイダンス 現研修医・医学部奨学生を対象に初開催
10月		
10月3日 (土) ~4日 (日)	研修会	第7回 埼玉協同病院 臨床研修指導医講習会 テーマ：「卒後臨床研修カリキュラム・プランニング」
10月28日 (水) 18:00~20:00	講演会	感染対策学習会 「手指消毒」 テーマ：手指消毒 講師：鈴木明子先生 (城西国際大学看護学部)
1月		
1月29日 (金) 13:00~20:00	E R指導 カンファレンス	SKYMET企画 講師：寺澤 秀一先生 (福井大学) テーマ：直接指導していただくことで、患者・家族対応を学ぶ。 コミュニケーションスキルを学ぶ。
2月		
2月21日 (日) 8:50~17:30	講習会	JMECC (内科救急&ICLS講習会) ディレクター：森脇 龍太郎 先生 (千葉労災病院)
3月		
3月24日 (木) 17:00~21:00	発表会	研修修了発表会 初期研修医2名の修了発表会 【第一部：メディカルスタッフ対象】 ふれあい会館 【第二部：医師対象】 東浦和高砂
3月25日 (金) 18:00~20:30	カンファレンス	感染症カンファレンス 講師：細川 直登 先生 (亀田総合病院 総合診療・感染症科部長、IDATEN 【日本感染症教育研究会】世話人)
毎月		
第2 or 3 (金) 19:30~21:00	Web 学習会	若手医師スキルアップwebセミナー2015

36. 看護育成室・感染対策室

看護長 江畑直子

【室体制】

- ・看護職4名(保健師1名・看護師3名) 事務総合職1名
- ・認定看護師 皮膚排泄ケア1名 糖尿病看護1名 感染管理1名
- ・特徴

各分野に関する委員会や医療チーム運営、各分野に関連する各種手順書作成・業務評価や構築、院内外のコンサルテーション機能、看護師確保業務・看護奨学生育成業務・看護関連事務補助(看護協会手続き・データ集計)

【総括】

1. 各分野医療チーム・看護学生委員会運営

会議開催・ラウンドや回診運営を例年通りに進めました。2014年度に実施された電子カルテ更新時の残務課題の解決にチームメンバーと共に取り組みました。

2015年度は新たに看護補助事務が配属となり、看護師確保に向けた看護学生委員会の運営に取り組みました。

2. 認定看護師活動の数値化

コンサルテーションや診療報酬算定に関わるデータを抽出しました。

各分野のデータ抽出を行い、所属チームでの検討を進めました。

3. 看護の質向上と看護業務の円滑化を目指したコンサルテーション

院内だけでなく、法人内外からのコンサルテーションに積極的に対応しました。

認定看護師間コンサルテーションにより、看護の質向上につながっています。

現場目線のコンサルテーションを重視し、継続実践可能な提案を進めています。

【今後の展望】

Q I データを活かした医療活動評価に取り組み、自活動の客観的評価を進めていきます。

看護学生のニーズに合わせた支援・育成を進め、看護師確保につなげます。

【実績】

1. 講師活動：院内13件 法人内19件 法人外1件(看護協会認定看護師派遣事業)
2. コンサルテーション：院内923件 法人内82件 法人外27件
3. 担当委員会：褥瘡対策チーム・褥瘡担当者会議・感染対策チーム(ICT)・感染対策スタッフ会議・糖尿病医療チーム・看護学生委員会
4. 所属委員会：県連&院内医療材料検討委員会・電子カルテ委員会・感染対策委員会・クオリティマネジメント委員会・エア・ウォーター会議・事業所利用委員会・県連看護学生委員会

【教育・研修・研究活動・学会等への投稿実績】

- ・県連看護学会(2演題)
- ・県連学術・運動交流集会(1演題)

37. 地域連携看護科

看護長 高橋恵子

【科体制】

- ・看護職：保健師1名・看護師4名
- ・特徴：
 - ①入院・外来患者の療養支援・意思決定支援を行っています。
 - ②緊急入院患者に対して問診聴取し、早期課題の発見・支援・他職種との連携調整を行っています。
 - ③地域診療所、訪問看護、ケアマネジャーなどの医療・介護施設との連携強化や各種相談も受けています。
 - ④がん患者の入院相談、外来支援を行っています。
 - ⑤訪問診療の同行、在宅を含めた看とり支援を地域支援事業と共同して行っています。

【総括】

1. 入院・外来患者の相談窓口として、周囲にアピールをしてきました。
 - ・外来のすべての診察室に「紹介カード」を設置し、医師から総合サポートセンターへ患者様をつなげやすい仕組みを作りました。
 - ・がんに関するパンフレットを健康ライブラリーに設置し、646冊配布されました。
2. 地域事業所の在宅受け入れがスムーズにいくよう、顔の見える関係作りを進めてきました。
 - ・各地域ケアマネ懇談会に7回参加し、情報交換や学習を進めてきました。
3. 川口保健所管轄の有床病院で構成する地域連携看護師会の活動に参加しました。
 - ・居宅支援事業所・訪問看護ステーションへ各病院相談窓口一覧を配布しました。
 - ・在宅処置マニュアルを作成し、各病院で活用できるようにしました。

【今後の展望】

1. 相談員が、同じ質で意思決定支援ができるよ

うなツールを作成します。

2. 胃ろう建設に関する意志決定支援が基準通りに職員によって遂行されるよう支援を行います。

【実績】

1. 訪問診療管理患者数 121件／年
2. 訪問診療同行 平均90件／月（うち、緊急訪問診療同行 71件／年）
3. 患者面談数 670件／年（がん患者面談76％・非がん患者面談24％）
4. 入院・外来療養支援延べ回数 259件／年（外来支援60％・入院支援40％）
5. 入院患者退院前の支援会議参加数 89件／年
6. 入院時間診聴取数 737件／年（緊急入院患者数の27％月平均に当たる）
7. 緊急入院調整数 67件／年

【教育・研修・研究活動・学会等への投稿実績】

- ・埼玉県看護協会3職能合同シンポジウム「看護職による地域連携の取り組み」報告
- ・西部文理大学・日本医療科学大学・目白大学 総合実習受け入れ
- ・訪問診療同行 医学生6名・看護学生3名 受け入れ
- ・「老健みぬま」、浦和民主診療所 在宅実習受け入れ
- ・班会11件参加（うち3件は、高齢者の地域看取りに関する講義）

38. 経営企画室

室長 小幡成植

【人員体制】

- ・事務1名
- ・特徴

経営企画室は、業務を通じて当院の適切な黒字経営に貢献します。

【総括】

1. 経営統計業務

経営報告、経営月報作成の業務を行い、予算と実績の乖離の分析調査を実施しました。

また、院内に経営委員会ニュースを発行することで、職員への経営情報提供を行いました(12回)。

2. 予算作成業務

2016年の予算編成作業を行いました。また、2016年診療報酬改定の対応を行いました。部門別損益計算書作成の再開を目指しましたが、未達成です。

3. 広報業務

埼玉協同病院広報紙「ふれあい」を更新しました。月刊12回、季刊号4回の編集を実施しました。埼玉協同病院の「年報2014」編集委員会の事務局・編集を担い、発行しました。「年報2015」の編集作業に着手しました。当院の医療内容や活動を紹介して、患者利用増や医師・看護師などの求人に貢献することを目指しました。

4. その他

エネルギー棟脇の芝生造成工事(5月、6月)、川口保健所立ち入り検査対応(7月)、救急車の運行(不定期)、部門内部監査(6月、12月)、委員会、チーム内部監査(7月、1月)、医師求人のホームページコンテンツ更新(7月)、ISO維持審査の対応(11月)、固定資産管理の確認集約(2月)、法人診療報酬改定セミナーの企

画・運営(2月)、外来デジタルサイネージの更新(3月)

【今後の展望】

埼玉協同病院ホームページのリニューアルに取り組めます。

39. 医局事務課

課長 我妻真巳子

【人員体制】

常勤3名、スタッフ1名、パート5名
(医局事務・文書係・図書室)

【概要】

- ・医師診療体制（協同病院・診療所・拠点病院）確立のためのマネジメントを行っています。
- ・医局運営（自部門の課題と他部門から求められる課題を整理して）のマネジメントをしています。
- ・常勤・非常勤医師の給与計算（点検・入力）、院所間交通費、派遣人件費
- ・医師入職（常勤及び非常勤）に関わる準備とオリエンテーションを行っています。
- ・新入職の医師に対し、電子カルテの操作説明をし、診療がスムーズに進むよう支援をしています。
- ・医局内の環境整備を行っています。
- ・医師事務作業補助者として医師の業務支援（文書下書きなど）をしています。
- ・図書業務の管理・運営を行っています。
- ・新専門医制度に基づいた研修プログラムの作成と申請、後期研修医確保のための準備を行っています。

【総括】

1. 新専門医制度

内科・総合診療において基幹施設としての申請準備と申請を行いました。

小児科・外科・眼科・産婦人科・皮膚科・泌尿器科・麻酔科・リハビリ・臨床検査は連携施設としての書類作成と申請を行いました。

2. HPHの取り組み

- ・10月16日に、東浦和駅で『駅前健康相談』を実施しました。医師9名、メディカルスタッフ

20名が参加し、18:30～19:30までの1時間ですが、相談件数は18件とたくさんの方が相談に訪れました。

- ・医局内では、毎日午後3:00になると音楽が流れ、皆でストレッチを行いました。

【今後の展望】

- ・医師が働きやすい環境づくり・業務整備に取り組みます。
- ・新専門医制度に向けて、導入前に運用整理・仕組みづくりを行います。
- ・私たち一人ひとりのスキルアップを目指します。

